

宝酒造では、お客様や社会、地球環境など、  
 ステークホルダーの皆様いきいきをお届けする企業であることをめざしています。  
 なかでも、独創的で確かな技術に裏付けられた商品やサービスを通じて、  
 皆様のいきいきとした生活に貢献することが願いです。  
 そして、その実現のために、社員がいきいきと働ける環境づくりや、  
 しっかりとした社内体制の構築に努めています。




## 編集方針



「緑字企業報告書2008」は、宝酒造のCSR(企業の社会的責任)に関する取り組みを、ステークホルダー(利害関係者)の皆様  
 にわかりやすく誠実に報告することをめざして発行しています。

- 対象組織:宝酒造株式会社単体の活動やデータを中心に報告しています。  
 ただし、一部TaKaRaグループ企業の活動やデータを含みます。  
 グループ企業を含むデータ部分については企業名を記載しています。
- 対象期間:2007年4月1日~2008年3月31日  
 ※上記の期間以外は年度を記載しています。
- 参考にしたガイドライン:環境省「環境報告ガイドライン2007年版」、GRI\*「持続可能性報告のガイドライン2006」を参考  
 に作成しています。  
 ※GRI(Global Reporting Initiative):環境面だけでなく社会、経済面も含めた報告書の世界的なガイドラインを作成し  
 ている国際団体。
- 発行時期:2008年9月(前回2007年8月、次回2009年8月予定)

## 詳細情報はホームページに掲載しています

本報告書に  マークを記載している情報につ  
 きましては、下記のアドレスからすべてご覧いただけ  
 ます。また、本報告書の内容はホームページでも公  
 開しており、最新版だけでなく過去の報告書もご覧  
 いただけます。

[http://www.takarashuzo.co.jp/  
 environment/greenpdf/pdf2008.htm](http://www.takarashuzo.co.jp/environment/greenpdf/pdf2008.htm)


-  1~10...工場別報告などの詳細資料
-  A~K...IR情報などの参照ページ

宝酒造の環境への取り組みにつきましては  
 下記のアドレスをご参照ください。

<http://www.takarashuzo.co.jp/environment/>

## 財務情報について

財務情報の詳細につきましては、宝ホールディン  
 グス株式会社のアニュアルレポートをご覧ください。  
 なお、宝ホールディングスのホームページではアニ  
 ュアルレポートだけでなく、決算短信、事業報告書、  
 有価証券報告書などの情報もご覧いただけます。

 A:IR情報



アニュアルレポート

## 目次

編集方針	01
トップメッセージ	03

—特集— 安全・安心への取り組み 宝焼酎「純」ができるまで	05
----------------------------------	----

## お客様の「いきいき」のために

お客様へ安全・安心をお届けします	11
お客様との対話を大切にします	13
お客様の健康を考えます	15

## 社会の「いきいき」のために

次世代に自然の大切さを伝えます	17
よりよい社会づくりをめざします①	19
よりよい社会づくりをめざします②	21

## 地球の「いきいき」のために

「緑字決算」を公表します	23
環境目標の達成状況を報告します	25
環境活動を支える仕組みを整えます	27
環境負荷削減に取り組みます	29
環境コミュニケーションを進めます	31

## 社員の「いきいき」のために

人財育成・能力開発に取り組みます	33
働きやすい環境づくりを進めます	35
仕事と家庭の両立を考えます	37

## 信頼される企業であるために

社内の体制を整えます	39
------------	----

企業概要／事業紹介	41
宝酒造のあゆみと社会・環境活動の歴史	43
第三者意見	45



トップメッセージ

## 皆様の「いきいき」に 必要とされる企業であり続けたい

宝酒造株式会社 取締役社長

大宮 久

企業理念

自然との調和を大切に、  
発酵やバイオの技術を通じて  
人間の健康的な暮らしと  
生き生きとした社会づくりに  
貢献します。

行動規準

消費者のいきいきは、私のいきいき  
—すべての行動は消費者の視点からスタートします—

1. パートナーと協力し、自ら率先して仕事の質を高めます。
2. いつも「なぜ?」と問いかけ、**変革**をすすめます。
3. 自信と誇りにあふれるプロをめざし、**スキルアップ**に努めます。
4. ユニークな発想で、摩擦を恐れず**議論**します。
5. 情報感度を磨き、目標に向かって**迅速**にチャレンジします。
6. 自己の言動に**責任**をもち、**法・社会倫理**を守り、**自然との共生**に取り組みます。

宝酒造では、皆様に「いきいき」をお届けすることが最大の社会的責任と考えています。

中でも、当社の商品やサービスを通じて、皆様の潤いのある「いきいき」とした生活に

少しでもお役に立てることを何より願っています。

たとえば、ご家族の団欒のひと時に当社の商品が少しでもお役に立つことができたなら、これに勝る喜びはありません。

そのためには、お客様のニーズにあった商品やサービスを開発すること、

また安心して召し上がっていただけるよう徹底した品質管理を行うことが大切です。

これらのことは、当たり前のことではありますが、その当たり前のことを実直に進めていくことが

大切であると考え、企業活動を推進しています。

この報告書は、当社が日頃取り組んでいる活動を皆様に広く知っていただくとともに、

社員の一人ひとりが自分たちの活動を見つめ直すことも目的としており、

社内外へ向けたコミュニケーションツールとして作成しています。

### お客様の「いきいき」のために

当社の商品やサービスを通じてお客さまに「いきいき」をお届けするためには、常にお客様の声に耳を傾け、お客様が求めるものを的確に感じ取ることが大切です。このため、営業活動を通じて感じたことや、お客様相談室に寄せられるご意見・ご要望をしっかりと社内にフィードバックし、商品開発に活かせるよう社内体制の整備に努めています。また、お客様に安心して当社商品を召し上がっていただけるよう、徹底した品質管理により確かな品質の商品をお客様にお届けするよう努めています。

### 社会の「いきいき」のために

企業活動を進める中では地域社会をはじめ、いろいろな形で社会から恩恵を受けています。当社が主体となって進める社会貢献活動のほか、NPO法人などとの協働による取り組みを積極的に進めています。また、次世代を担う子どもたちを対象とした社会貢献活動にも力を入れています。

### 地球の「いきいき」のために

当社の事業は、きれいな水や農作物、微生物など自然の恵みを得て成り立っています。このため、古くから自然

環境に配慮する企業精神が脈々と息づいています。そのような思いは1985年に制定した企業理念にも掲げています。生産活動における環境負荷削減に留まらず、事業活動を行ううえでの前提となっている自然環境の保護活動や商品販売後の空容器の問題に至るまで責任をもって取り組むことで、地球環境の「いきいき」を守っていききたいと考えています。

### 「いきいき」を届ける企業であるために

お客様、社会、地球へ「いきいき」を届けるためには、何より社員が「いきいき」としていることが大切です。当社では、新商品の開発や技術改善の提案の場をできるだけ多く設けたり、経営陣と社員や社員同士の間で率直な意見交換ができるような風土づくりを進め、やりがいのある職場づくりに努めています。

皆様に「いきいき」をお届けすること。それが私たちの最大の責務であり、当社が社会に必要とされる存在としてあり続ける条件であると考えています。皆様の「いきいき」になくてはならない企業であり続けるために、今後とも様々な方と協力しながら企業活動を推進してまいります。

—特集—

安全・安心への取り組み

# 宝焼酎「純」ができるまで

1977年に誕生して以来、

多くのお客様に愛され続ける宝焼酎「純」は、

ピュアな甲類焼酎をベースに

11種類の樽貯蔵熟成酒をブレンドしてつくられます。

宝酒造では、すべての工程で品質にこだわり、

安全・安心な商品づくりに取り組んでいます。

原料

糖化・発酵

ベースとなる焼酎には、原料にサトウキビ糖蜜を使用し、樽貯蔵熟成酒には大麦や、トウモロコシなどを使用しています。いずれも品質と安全性を重視し、厳選した原料です。



糖化された原料に水と酵母を加えて発酵させると、アルコールを含んだ「もろみ」ができます。糖化や発酵具合をはじめとした品質チェックを定期的に行っています。

## 宝焼酎「純」の品質を守り続ける責任と誇り

黒壁蔵 生産課  
大始良 義尚

宝焼酎「純」は、10年という歳月をかけて完成した、宝酒造の想いが込められた商品です。私自身も入社当時から長い間関わってきたこともあり、「純」に対する思い入れは人一倍強く、「純」が現在の私という人間をつくったと言っても過言ではありません。香りや味の成分の品質は、最新鋭の分析機器により正確に管理されていますが、複雑な成分がからみあって醸し出される「純」の味わいの最終的な判断は、長年の経験とスキルを持つ社員が行っています。黒壁蔵では、「純」の



味わいを決める貯蔵熟成酒をつくっていることもあり、社員全員が責任の重さを感じながら日々仕事をしています。これからも「純」の品質を守り続けていくために、長年培った技術を後輩へしっかりと引き継いでいきたいと思っています。



蒸留

樽貯蔵

精製・ろ過

ブレンド

連続式蒸留機で蒸留を行うことで、ベースとなるピュアな焼酎が生まれます。「純」に使用する貯蔵熟成酒は、蒸留する原料やめざす味わいにあわせて、複数ある蒸留塔をどう組み合わせるか、各成分をどれくらい抜き取るか、蒸留速度をどうするかなど、独自の技術により蒸留方法を変えて磨き抜かれていきます。



蒸留の状態は、高精度な分析装置で成分分析を行い、管理しています。



貯蔵熟成酒は、樽で寝かせてゆっくりと熟成されます。それぞれの貯蔵熟成酒には、適した樽の素材や貯蔵年数があり、定期的に官能検査を行って「純」の味わいに最適な時期を見極めます。



約85種類にもおよぶ貯蔵熟成酒の中から選ばれた、「純」の味わいを深める11種類の貯蔵熟成酒は、官能検査によって樽ごとの色や香り、味わいなどが確かめられた上で、ブレンドされます。



空びん検査機

充填室はクリーンルームになっており、室内の気圧を高く設定して陽圧化し、外部からの虫、チリやホコリなどが入り込まないように厳密に管理されています。ここはゾーニングの規定により、特別清浄区に指定されており、専用のクリーンウェア(防塵服)やマスクを着用、エアシャワーを浴びてチリやホコリなどを除去し、床の粘着マットで靴底の汚れを落としてから入室します。



ボトリング



仕上げ洗浄機

宝焼酎「純」の720mlびんは、繰り返し使えるリターナブルびんを採用しており、回収後に再使用しています(回収は一部の地域を除きます)。洗びん会社で洗浄されたびんは、人による目視検査と空びん検査機で再度厳しくチェックしています。洗びん機で洗浄した後は、さらに仕上げ洗浄を丁寧に行っています。

洗びん

## 高度な検査スキルを磨き、安全・安心を守り抜く

松戸工場 生産管理部 詰口課  
徳嶋 正裕

宝焼酎「純」は、工程ごとに機械と人がそれぞれの能力を最大に発揮しながら品質を管理しています。ラベルの微妙な傾きやびんの小さなキズなどは高性能な検査機でチェックした上で、さらに社員が目視による検査を行っています。生産現場では、ラインの流れの中で良品と不良品を瞬時に見分ける能力を安定的に発揮することがとても重要になります。検査を担当する社員には、独自の資格テストを定期的の実施することで、スキルの確認・維持に努め、「純」の安全・安心を守っています。



宝焼酎「純」の生産ライン



検びん

検査

## 宝焼酎「純」の安全・安心は、一人ひとりの心がまえから

松戸工場 生産管理部 詰口課  
佐藤 羊一郎

清潔な身だしなみや衛生管理は、宝焼酎「純」の安全・安心を守るための基本と考えています。製造現場に入る前には、手洗いと作業服に付いたチリやホコリの除去を行い、作業開始前には、服装や持ち込み禁止品確認の指差し呼称による相互確認を義務づけています。これらの取り組みは、食品の製造に関わる者として当然のことなのですが、何よりも大切なのは、社員一人ひとりが安全・安心に対する意識を常に持ち続けることです。「純」の30年という歴史は、諸先輩たちが安全・安心に対する心がまえを守り続けてきた歴史でもあり、私たちもその気持ちを忘れず、「純」の新たな歴史を作っていきたいと思っています。



作業服のチリやホコリを除去



服装や持ち込み禁止品の指差し相互確認



検査士による目視検査

モニターと照らし合わせて、ラベルの印字や使用資材などを抜き取りで検査します。



実液検査機によるチェックの後、さらに検査士が、びんの不良や異物がないか、ラベルやキャップの状態に問題がないか、一つひとつ厳しくチェックします。



実液検査機によるチェック



検査士による官能検査

商品をお客様のもとへ出荷する前の最終検査は、より厳しく綿密に行います。  
アルコール度数の測定、成分分析のほか、鍛え抜かれた味覚や嗅覚をもつ検査士が官能検査を行って微妙な味わいや香りを確認し、商品の品質、安全を確認します。  
また、製品ごとに1次、2次、3次と複数回にわたる開封検査を抜き取りで実施し、ラベルの印字やびんのキズなどの最終チェックを行います。



分析機器を使用したアルコール度数検査



出荷前の開封検査

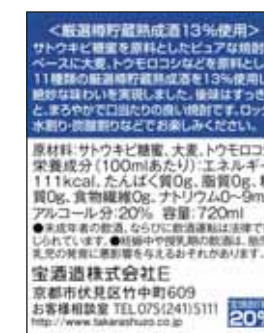
検品

## 宝焼酎「純」の味わいをお客様に安心して楽しんでいただくために

お客様相談室  
植田 徹

お客様相談室には、さまざまなご質問やご意見をお寄せいただきますが、とりわけ宝焼酎「純」については、味わいに対するご満足のお声をいただくことが多く、お客様の「いきいき」を日々実感しています。ここ数年、食の安全・安心に対する消費者意識の高まりから、商品に使われている原材料や賞味期限に関するお問い合わせを多数いただくようになりました。宝焼酎「純」につきましては、こうしたニーズにも配慮し、2007年10月よりラベルに原材料、栄養成分を表示しています。「純」をはじめとする焼酎はアルコール度数が高く、品質が変化しにくいという特性がありますが、開封後もおいしくお飲みいただくために、直射日光を避け涼しい場所で保管いただくことをおすすめしています。

原材料・栄養成分を表示



宝焼酎「純」の裏ラベル



出荷

## すべてはお客様に安心と満足をお届けするために

松戸工場 生産技術部 品質管理課  
藤波 俊輔

工場では、商品の品質管理とお客様満足の向上をめざし、国際規格「ISO9001」に基づき、社員全員が心を一つにして各工程で安全・安心の意識をつなぎ、よりよいモノづくりをめざしています。生産工程の最終段階においては、厳格な官能検査や商品の抜き取りでの開封検査はもちろんのこと、「お客様に心からご満足いただくために何ができるのか」を常に考え、品質管理のさらなる改善に努めています。長年愛され続けている宝焼酎「純」の生産に関わる者として、社員一人ひとりが地道な取り組みを継続していくことこそが、お客様の安心と満足につながっていくものと考えています。



各工程での厳しい品質検査に合格した宝焼酎「純」が出荷されます。製造ライン・ボトリングした日時・出荷日時などの製品情報は、バーコードで管理しています。データとして記録することで、出荷後の商品に万が一、何か問題があった場合でも、出荷先を速やかに特定できる体制を整えています。

販売



安全と品質にこだわった宝焼酎「純」をお客様にお届けします。

お客様の「いきいき」のために

# お客様へ安全・安心をお届けします

商品企画から製造・出荷にいたるまでの確かな品質管理体制のもと、お客様に安全で安心していただける商品をお届けできるよう努めています。

## 品質への取り組み

宝酒造では、お客様に安全で安心していただける商品をお届けするため、食品衛生法をはじめとした法律の遵守はもちろん、商品の企画から設計、調達、製造、出荷にいたるすべての工程で品質と安全性を追求しています。

### 商品企画

商品企画の段階では、消費者アンケートやグループインタビューを行いながらお客様や市場のニーズをキャッチし、高品質でオリジナリティあふれる商品開発に取り組んでいます。また近年では、食の安全・安心に対する意識の高まりを受けて、原料の品質や産地にこだわった商品の開発をすすめています。



うかについても、この段階で審査し決定します。その後、最終的な品質規格が決まり、製造仕様書が承認された後、工場での生産が可能となります。

酒類商品には法的義務のないアレルギー表示\*についても、すべての商品に表示するなど、法律の遵守のみにとどまらず、よりお客様の立場に立ったラベル表示・商品づくりをめざしています。

\*表示義務のある7品目に加え、奨励表示の18品目を対象としています。



分析、品質検査の様子

### 品質設計

設計段階では、品質規格、商品の安全性から容器包装品の適性、製造工程にいたる商品の設計内容すべてに対して、デザインレビュー（設計審査）の手法を用いて徹底した確認を行っています。

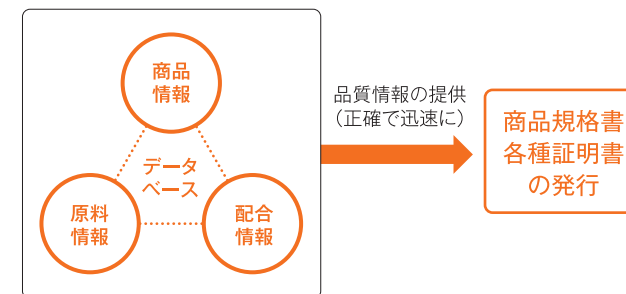
まず、開発部署にて試作品を作成し、品質や保存安定性の確認を行います。そこで得られたデータを基に、専門技術者による設計審査会議を開き、設計内容が適切かどうかを協議・審査します。賞味期限やラベルの表示内容が適正かど

### 原料調達

安全でおいしい商品をお届けするために、信頼できる原料サプライヤーを選定し、品質・安全性・適法性の保証が得られる原料を調達しています。すべての原料は、「品質保証書」を入手し安全性を確認するとともに、由来や産地などの詳細な情報はデータベースにて管理しています。

また、原料の詳細情報は配合などの設計情報と統合し、商品ごとに検索可能な原材料の品質情報管理システムを構築しています。お客様やお取引先からのお問い合わせにも迅速かつ正確に対応できるように努めています。なお、書類での確認にとどまらず、輸入原料および輸入製品を中心に、自社の分析センターにて、残留農薬などの検査を実施し、安全性の確認を強化しています。

#### ■原材料の品質情報管理システム



### 製造

宝酒造では全工場でISO9001品質マネジメントシステムの認証を取得し、品質保証の基盤強化に取り組んできました。

原料受入から出荷にいたるまで、品質検査に合格したもののだけが次工程に進み、最終検査を経て出荷されます。自動検査装置による異物検査や印字検査、検査士による目視検査や官能検査、最新の分析装置を利用した成分分析を実施して、商品の安全と品質の確保に努めています。



【印字検査】ラベルに記載している賞味期限をカメラにより全数検査している様子



【目視検査】容器を回転させ、液もれや容器のキズなどが目視で検査している様子

## 紹興酒における取り組み

宝酒造では、30余年にわたり、輸出専用ブランドとして最高級の品質を誇る紹興酒「塔牌」を中国から輸入しています。使用する原料の安全性については、品質証明書による確認だけでなく、直接、原料サンプルを入手し、日本国内の検査機関にて分析を行い確認しています。

また、2006年より施行された残留農薬ポジティブリスト制度\*への適合性も確認しています。

\*残留農薬ポジティブリスト制度…基準が設定されていない農薬などについても、一定量以上含まれる食品の販売等を禁止する制度。



紹興酒の品質証明書



紹興酒「塔牌」花彫(陳五年) 600ml

## 自主回収と再発防止策について

2007年12月、「タカラ本みりん」の販売促進用の消費者向け景品として使用した「とぞ散」に関して、賞味期限を経過したものを一部誤って出荷してしまいました。対象数量は2,400個で、人体には悪影響を及ぼす恐れがないことを確認しましたが、薬草の風味が変化している可能性があることから、販売店様などを通じて「とぞ散」

の自主回収を実施しました。賞味期限切れの「とぞ散」の廃棄が徹底されておらず、誤って出荷したことを重く受け止め、コンプライアンス委員会を開催し、確実に廃棄するルールへの変更や賞味期限の過ぎた景品の出荷はできないシステムを構築するなどの対策を講じるとともに、社内教育で再発防止を徹底しました。

## お客様の「いきいき」のために

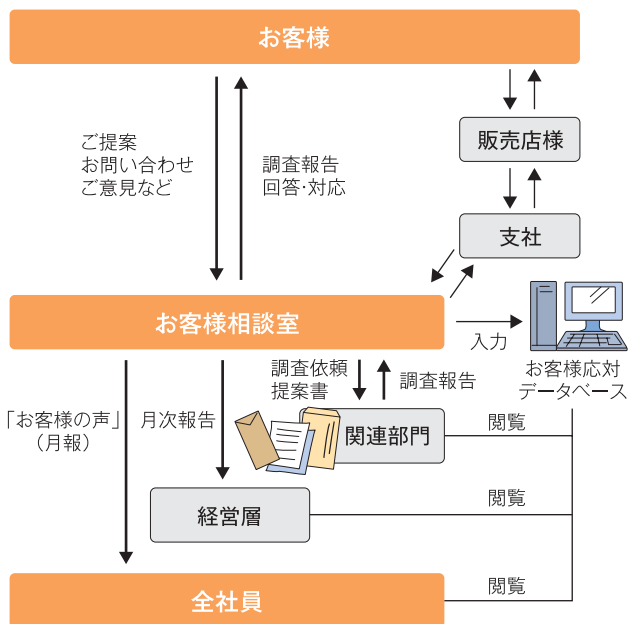
# お客様との対話を大切にします

お客様によりよい商品やサービスをお届けし、皆様の信頼とご期待にお応えできる企業であるために、お客様とのコミュニケーションを大切にしています。

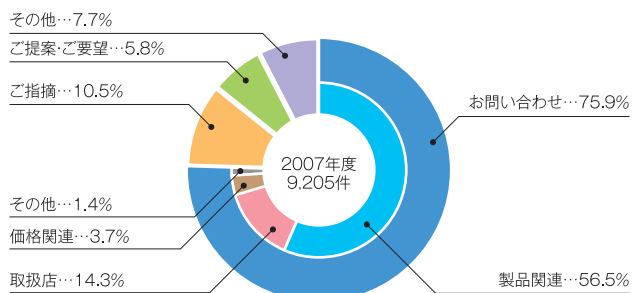
### お客様相談室の役割と仕組み

お客様相談室では年間、約1万件のお客様の声(ご意見、お問い合わせ)をいただきます。私たちは、その一つひとつに真摯に耳を傾け、よりよい商品をより安全に提供できるように、お客様と宝酒造との懸け橋となるべく努めています。「消費者のいきいきは、私のいきいき」を行動規準にしている宝酒造では、お客様の声は個人情報保護した上で、すべてデータベース上に蓄積し、全社員に公開しています。会社の窓口として、相談室一同、「誠実・迅速・確実」をモットーに、お客様に最適な対応ができるよう努めています。

#### ■お客様対応の流れ



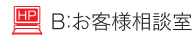
#### ■お客様相談件数と内訳



### お客様へのさまざまな情報提供

宝酒造ホームページ内に「お客様相談室」を開設し、お客様からよくいただくご質問とその回答を掲載しています。また、梅酒をはじめとするホームメイドリキュールの作り方や、調味料を使った料理レシピの検索など、お客様のお役に立つ情報もホームページに多数掲載しています。

#### 【お客様相談室のアドレス】



<http://www.takarashuzo.co.jp/soudan/index.html>



### Eメール受付窓口を新設

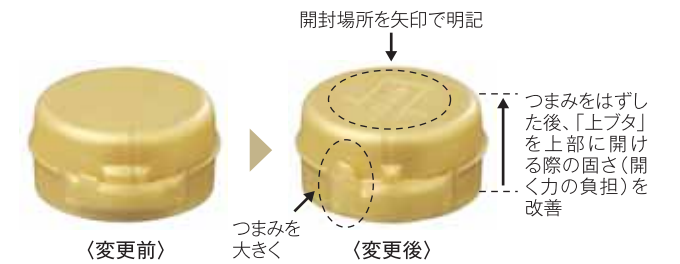
2007年9月より、お客様からの声をいただく上での「Eメール受付窓口」を新設しました。従来は、お電話での受付時間が、平日の9時～17時に限られており、お問い合わせの時間に制約がありました。インターネットの活用により、今後は夜間や休日でも(ご都合のよい時間に)、ご意見やお問い合わせを受け付け可能となりました。お客様とのコミュニケーション機会が増えることを期待しています。



ホームページ内のEメール受付部分

### お客様の声を反映した改善事例

「タカラ本みりん純米」(1ℓ ペット・600ml ペット・300ml ペット)、「タカラ料理のための清酒」(1ℓ ペット)のキャップは「いたずら防止機能」を備えた形式を採用していますが、お客様から「うまく開封できない」、「使いづらい」とのご意見をいただいたため、機能を維持したまま、より開封しやすい形状に変更しました。



昨年よくいただいたご質問の中から、一部をご紹介します。

**質問 1** 清酒の賞味期限はどれくらいですか？

**【回答】** 清酒にはもともと賞味期限の設定はありませんが、一般の清酒は、開栓前なら製造年月から約1年間はおいしくご賞味いただけます。また、純米酒は約10カ月、生酒は約半年が目安となっています。この期間を過ぎますと、徐々に風味は落ちていきますが、飲めなくなるわけではなく、飲用されてもお体に障るということはありません。年月の経った清酒を「ひねた味」と表現し、好まれる方もいらっしゃいます。

**質問 2** 本みりんの色が茶色く変色してしまいました。もう使えないのですか？

**【回答】** 本みりんには、もち米由来の「糖」と「アミノ酸」が豊富に含まれています。これらの糖とアミノ酸が、時間経過とともに反応(アミノカルボニル反応)して着色が進行します。また、保管温度が高いほど着色は早く進みます。着色しましても、調理効果には影響しませんので、賞味期限内でしたら安心してお使い下さい。

**質問 3** 焼酎には、賞味期限が記載されていないようですが、なぜですか？

**【回答】** 一般に、焼酎やウイスキーなどの蒸留酒は、アルコール度数が高く、時間経過による品質の変化が起こりにくいという特性があります。焼酎をはじめ酒類については、食品衛生法において、賞味期限の表示を省略してよいことになっております。焼酎に賞味期限の表示がないのは、こうした背景によるものです。なお、開封後もおいしくお飲みいただくためには、常温保管でかまいませんが、直射日光を避け、暗く涼しい場所で保管いただくことをお勧めします。

**質問 4** 「料理用清酒」は「飲用清酒」とどこが違うのですか？

**【回答】** 「料理用清酒」は、「飲用清酒」と比べて料理用に酒質設計され、天然有機酸や天然うまみ成分が多く含まれるため、生臭みを消す効果やコクやうまみを与える効果に優れています。

## お客様の「いきいき」のために

# お客様の健康を考えます

適切でない飲酒によるお客様の健康障害を防止するため、適正飲酒の啓発活動を行うとともに、商品の特性をわかりやすくお伝えする表示を心掛けています。

### 適正飲酒の啓発活動

お酒は、適量であればストレス緩和やコミュニケーションを円滑にすることに役立ちますが、飲みすぎによる健康障害や未成年者飲酒、飲酒運転などの問題があることも事実です。

宝酒造では、適正飲酒の啓発は酒類を製造販売する企業の重要な責任と考え、この問題にいち早く取り組んできました。1985年の「Say Noキャンペーン」では「いい日、いい酒、いいマナー」を提唱し、さまざまな形でメッセージを発信したほか、1986年にはお酒の正しい知識や飲み方をわかりやすくまとめたパンフレット「Say No読本」を発行し、現在は1995年にリニューアルした「Say No! Press」をさまざまなイベントでご提供しています。

未成年者飲酒防止の取り組みとしては、1995年から製品本体における注意表示を実施しており、飲酒運転防止に関しても自主的な取り組みとして注意表示を実施しています。

☒ C:「Say No! Press」



1985年当時の「Say Noキャンペーン」ポスター



「Say No! Press」



ホームページ内の適正飲酒啓発ページ

### 親子で学ぶ適正飲酒

2004年から実施している「TaKaRaお米とお酒の学校」では、社会問題となっている未成年者飲酒防止をはじめとする適正飲酒のためのプログラムを実施しています。子どもたちにもわかりやすいように、イラストや看護師の方のお話も交えながら「子どもがお酒を飲んではいけない理由」「大人になってからの上手なお酒との付き合い方」「妊娠中や授乳期、車の運転時など絶対に飲んではいけない理由」などについて学びます。また、アルコールが体におよぼす効果、影響を親子で学び、お酒についての正しい知識とマナーを身につけていただくために、アルコール体質判定テスト(パッチテスト)などの体験も取り入れています。



アルコール体質判定テストの様子

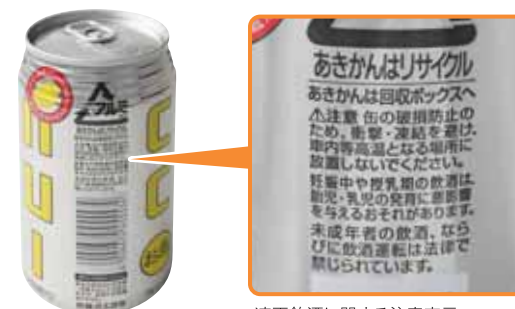


看護師の方によるお話

### 妊産婦飲酒の防止

妊娠中の女性が飲酒をすると、アルコールは血液を介して赤ちゃんの体内に入ります。その結果、生まれてくる赤ちゃんに脳や身体の発育障害、特徴のある顔貌、臓器・生殖器・手足の皮膚・骨・筋肉などの障害が現れる危険性があります。これらは「胎児性アルコール症候群」と呼ばれており、出産障害の原因の一つとされています。

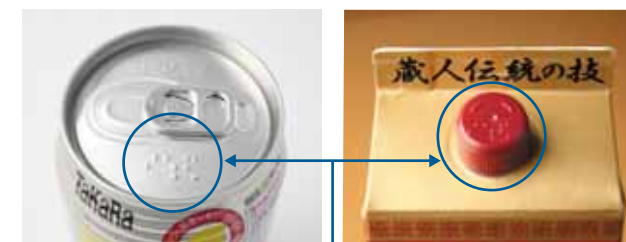
宝酒造では、ホームページや「Say No! Press」を通じて妊産婦飲酒の危険性についてお知らせしています。また、2004年に酒類業界として酒類の容器に妊産婦に対する飲酒の注意表示を入れることを決め、当社の酒類商品において「妊産婦飲酒警告表示」を実施しています。



適正飲酒に関する注意表示

### 誤飲防止の取り組み

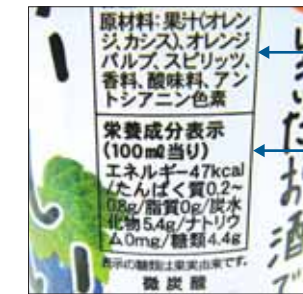
宝酒造では、1995年に誤認飲酒防止のために国内で初めてタカラcanチューハイシリーズの缶ぶたに点字で「おさけ」の表示を入れました。2002年には、やはり国内で初めて酒類紙パック商品のキャップに、同様の表示を入れました。



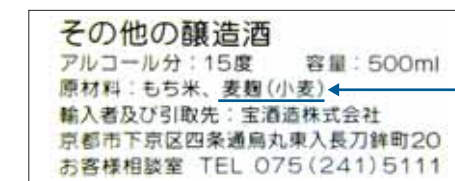
缶ぶたやキャップに点字を表示

### 原材料・栄養成分・アレルギー等の表示

関連法規に準じて原材料やカロリー等の栄養成分について表記はすることはもちろんのこと、法的には酒類商品に表示義務のないアレルギー成分についてもラベルに表記を実施しています。



原材料・栄養成分表示の例(チューハイ)



アレルギー表示の例(紹興酒)

### 商品の表示に関するさまざまな取り組み

これまで本格焼酎や甲乙混和焼酎には、表示に関する公正競争規約や自主基準がありました。甲類焼酎には、表示に関する業界内における統一したルールがありませんでした。一方で、原材料名を明記した本格焼酎との比較などにより、お客様から甲類焼酎の原材料に関する問い合わせを多数いただくようになりました。そこで、宝酒造では「甲類焼酎の表示に関する自主基準」が規定された2007年10月以降、甲類焼酎すべての商品を対象に原材料表示を実施しています。

また、清酒一升びんに紙巻き包装を施した商品については、包装紙を外さなければ製造年月を確認することができませんでした。このため製造年月を紙巻きにも表示するよう改善し、製造年月の確認を容易にしました。このように、商品特徴の訴求面も含めてより適切な商品表示に努めており、お客様が商品を選ぶ際に、わかりやすい表示となるよう心掛けています。



社会の「いきいき」のために

# 次世代に自然の大切さを伝えます

次世代を担う子どもたちに自然の大切さを伝えるために、自然の尊さや社会のルールを学ぶ「TaKaRaお米とお酒の学校」を開校しました。

## 「TaKaRaお米とお酒の学校2007」を開校

宝酒造は、穀物や水、微生物など自然の恵みを受けて事業活動を行っています。このため、昔から「自然の恵みを自然にかえす」という企業精神が受け継がれ、また企業理念にも「自然との調和」を謳い、環境活動に積極的に取り組んできました。

このような活動の一環として2004年から、次世代を担う子どもたちに自然の大切さを伝えることを目的として、「TaKaRaお米とお酒の学校」を開校しました。この学校では、お米づくり体験や自然観察のほか、適正飲酒などの社会ルールについても学びます。なお、2008年度からは「TaKaRa田んぼの学校」と名称変更し、より食育に力を入れた内容にリニューアルしています。

D:お米とお酒の学校

田植え編  
4月21日(土)



〔田植え体験〕〔草花名刺づくり〕〔自然観察〕

草取り編  
6月2日(土)



〔草取り体験〕〔かかしづくり〕〔自然観察〕

恵み編  
10月20日(土)



〔おにぎりパーティー〕〔ラベルづくり〕〔適正飲酒〕

収穫編  
8月26日(日)



〔稲刈り体験〕〔わら紙すき〕〔自然観察〕

お酒の完成!  
3月中旬

収穫したお米は宝酒造白壁蔵の技術陣が丹精込めて清酒につくりあげます。出来上がった清酒は子どもたち手作りのオリジナルラベルを貼って参加のご家族の元へ。

## 「お米とお酒の学校」を支えている人たち

「お米とお酒の学校」は、宝酒造の社員とともに、NPO法人森の学校のみなさんや、千葉県印旛郡栄町の農家である帯金さん、千葉県自然観察指導員協議会のみなさんなど、多くの人たちが協力して運営しています。



NPO法人森の学校  
佐伯 剛正さん

### 学校運営支援

この学校では自分の心と五感を使って学んでいきます。大切にしたいことは、家族みんなで田んぼの中の「命のつながり」を学び、私たち自身の命の大切さに気づくことです。そして自然の恵みの価値、その恵みの源である自然の大切さに気づくことです。もう一つは、「食」についてです。「食」という字は「人を良くする」と書きます。この学校のお米づくりと環境教育のプログラムを通して、「食」についても家族で考えてもらえたらと思います。



千葉県自然観察指導員協議会  
のみなさん

### 自然観察

私たちの活動の主旨は、命のつながりを教えながら、自然には何一つ無駄なものはないこと、人間も自然の一部であること、昔から日本にあった森林文化、草花遊びなどの伝承文化を伝えていくことです。この「お米とお酒の学校」は、さらに食と農を通じて、自然と人間の関わりを実体験できるよい取り組みだと思います。今後も、私たちができる限りの協力をしていきたいと思っています。



帯金 国男さん

### 農業指導

都会に住む方たちが自ら田んぼに入って苗を植え、草取りをし、収穫をすることで、「お米はこうやってできるんだ」ということを肌で感じてもらうことができる、すばらしい企画だと思います。この学校では、田植えから収穫まで農作業の流れをすべて体験できます。参加されたみなさんは、ご飯を食べる時にもお米のありがたさや、自然の恵みということを考えてくれるのではないのでしょうか。



松戸工場 工場管理課  
貫井 光晴

### 社員ボランティア

2004年の開校当初から毎回欠かさず参加していますが、決して使命感だけではなく、私自身楽しみながら参加しています。グループサポーターとして各授業に参加し、自然観察指導員の方や森の学校のみなさんの話を聞くことで、子どもたちと一緒に「命のつながり」を学んでいます。また、連続して参加すると子どもたちの顔や名前も覚えることができますし、コミュニケーションも増えて楽しいですね。

収穫されたお米でつくったお酒の売上の一部を緑の募金に寄付しています

「お米とお酒の学校」で参加者が育てた「あきたこまち」を使い、白壁蔵で丹精込めて製造した清酒の一部をオンラインショップで限定販売。売上の一部を緑の募金に寄付しています。



E:オンラインショップ

## 社会の「いきいき」のために

# よりよい社会づくりをめざします①

社会と共生する企業市民として、地域におけるさまざまな活動を支援し、皆様とともによりよい社会づくりをめざします。

### TaKaRa田んぼの学校 クリック募金

2008年3月より、「TaKaRa田んぼの学校 クリック募金」を始めました。田んぼを舞台にした環境教育や自然保護活動などを展開しているNPO法人等を寄付先に選定し、その活動内容の紹介や寄付金の提供による活動支援を実施しています。

第1回目は、都市と農山村を結びつけ棚田地域での農作業体験や援農活動、棚田に関する普及啓発活動などさまざまな支援を熱心に展開している「棚田ネットワーク」を寄付先に選定し、その活動を支援しました。

今後も、「TaKaRa田んぼの学校」の活動内容（〈田植え編〉、〈草取り編〉、〈収穫編〉、〈恵み編〉、〈募集告知〉）をホームページで紹介するタイミングに合わせて、種々のNPO法人を対象にしたクリック募金を実施していきます。



クリック募金の画面。寄付先のNPO法人（棚田ネットワーク）の活動内容についても紹介している。

※クリック募金とは…クリック募金サイト上の募金ボタンをクリックするだけで、スポンサー企業が選定した支援先（環境問題や人道支援など）に取り組むNGOやNPOなどに無料で寄付ができる仕組みです。スポンサー企業は、クリック数に応じた金額（通常、1クリックが1円）を支援先に寄付します。

F:クリック募金

### インターンシップの取り組み

職場体験を通じて企業活動や組織について理解を深め、自分の適性や能力に見合った職業を選択する意識を醸成してもらうことを目的に、大学生および大学院生を対象としたインターンシップを1998年から実施しています。今回は学生のみなさんに「商品企画のプロセスから“ものづくり”の考え方を学ぶ」をテーマに、商品コンセプトの設計や市場データの調査、試作品の製作などを体験していただきました。

#### ■インターンシップ受け入れ状況

	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度
インターンシップ (受け入れ人数)	6	6	8	8	12

### ベロタクシーへの協賛

ベロタクシーとは、1997年にドイツの首都ベルリンで「環境にやさしい新しい交通システムと動く広告がひとつになった乗り物」として開発された自転車タクシーです。日本での運行は、NPO法人「環境共生都市推進協会（VELOTAXI JAPAN）」が京都でスタートさせました。

宝酒造では、地球温暖化防止に、またその啓発としても役立つ「ベロタクシー」に共感し、2002年の走行開始以来毎年協賛しています。

また、「エコプロダクツ展」や「京都環境フェスティバル」などの環境イベントにおいて、宝酒造のブース内にベロタクシーを展示したり、無料体験試乗会を実施することで、CO<sub>2</sub>問題に対する啓発を行いました。



ベロタクシー

### 京都環境ポスターコンクールに協賛

宝酒造では、地球温暖化防止京都会議（COP3）開催10周年記念事業の一つとして実施された「京都環境ポスターコンクール」に協賛しました。このコンクールは、京都議定書誕生の地・京都から地球温暖化防止のメッセージを発信しようとする試みとして、京滋地区の芸術系5大学と京都府により実施されたものです。各大学より計165作品の応募があり、最優秀作品1作品（京都府知事賞）を含む優秀な30作品が選ばれました。選ばれた作品は、12月に開催された京都環境フェスティバルで展示されたほか、「インターネット展覧会」としてホームページ上でも公開されました。



京都環境ポスターコンクール最優秀作品 京都環境ポスターコンクール原画展

### 各地のボランティアにも参加

社会貢献活動の一環として、各地のボランティア活動に積極的に参加しています。

#### ■その他の社会貢献活動

社会貢献活動（協賛）
阿武隈川きらきらキャンペーン（福島県）
長野の宝を守るキャンペーン（長野県）
びっくり！エコ100選（京都市）
芝生スクール京都（京都市）
2008ボランティア・市民活動フェスタ（京都市）
東京都中央区フラワーサポート（東京都）

### アースデイ東京に協賛

4月21日、22日の両日、代々木公園で開催された日本最大の市民フェスティバル、「アースデイ東京」に協賛・出展しました。宝酒造では、2000年よりアースデイに協賛・出展しており、これで8年目になります。多数のNPOやNGOのブースが立ち並び、宝酒造のブースでは、焼酎のはかり売りや宝焼酎「純」リターナブルボトルなどの環境配慮型商品を紹介するとともに、多くの市民の方々の情報交換をはかり、貴重な意見をいただくことができました。



アースデイ東京での展示会の様子

#### ■主なボランティア活動

実施内容	事業場
阿武隈川の清掃ボランティア	東北支社
「江戸川を守る会」主催 「江戸川クリーン大作戦」への参加	松戸工場
鯨船練行事（地元祭事へのボランティア参加）	楠工場
献血	伏見工場
琵琶湖一斉清掃	伏見工場
京都市まち美化 清掃ボランティア	本社
「お米とお酒の学校」 サポーターボランティア	全社
「地球ピカピカ大作戦」 事業所周辺清掃	労働組合

## 社会の「いきいき」のために


# よりよい社会づくりをめざします②

「自然と社会と人間との調和」をめざし、TaKaRaグループでは皆様とともに、さまざまな社会貢献活動を推進しています。

※このページはTaKaRaグループに関する内容です。

### 公益信託「TaKaRa ハーモニストファンド」(宝ホールディングス)

宝ホールディングスは、1985年の創立60周年を機に公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動、そこに生息する生物を保護するための研究などに対して助成を行ってきました。第1回からの助成先件数はのべ240件、助成金累計額は1億1,525万円、地域は40都道府県に広がりました。2007年度は、青森県小川原湖自然楽校による「マリモなどの水草や藻の観察体験をもとに小川原湖の環境保全について考え環境教育を進める活動」など10件が選ばれました。

 G:TaKaRaハーモニストファンド



#### ■2007年度「TaKaRa ハーモニストファンド」助成先一覧

	助成先団体・個人	地域	テーマ
研究の部	淀川水系イタセンバラ研究会	大阪府	絶滅の危機に瀕するイタセンバラ(コイ科タナゴ類)の寿命に関する研究
	野尻湖水草復元研究会	長野県	水草と絶滅危惧種の保護と自然界への復元に関する研究
	藤田 喜久(個人)	沖縄県	地下水性生物を指標とした琉球列島の地下水環境評価基準の確立
	金尾 滋史(個人)	滋賀県	水田地帯における魚類相の時代変遷と保全に関する研究
	蔵本 泰輔(個人)	奈良県	琵琶湖におけるフロリダバスとノーザンバスの生態的特性の比較
活動の部	小川原湖自然楽校	青森県	小川原湖水辺体験活動から環境教育へ
	八方尾根自然環境保全協議会	長野県	八方尾根における植生回復事業
	環白山保護利用管理協会	石川県	甕の白山の御師~エコツアーガイド養成と利用ローカルルール策定~
	子どもと川とまちのフォーラム	京都府	第7回 子どもと大人の川とまちの寄り合い会議
	久米島ホテルの会	沖縄県	クメジマボタルの生息する川を赤土の流出から守れ!

#### 助成先の声

小川原湖自然楽校では、小川原湖周辺市町村に居住する子どもとその保護者を対象に、年間を通して小川原湖周辺での自然体験活動、環境保全活動をすすめています。活動としては、湖畔のブナ林観察、仏沼での野鳥観察、根井沼の浮島探検などがあります。小川原湖には、汽水湖としては珍しいマリモや、マリモの親戚で、日本では小

川原湖で初めて確認されたウイトロキエラサリナという藻類があります。その他にも小川原湖に生息する水草の1/3は特定種と言われています。今回、助成金を活用させていただいた活動は、水草観察したあとにオリジナルの水草図鑑を作るというもので、それも電子化により毎回の書き込みができるようにしたものです。この活動は、第7回北東北「川・水環境」ワークショップでグランプリをいただき、自分たちの活動の大きな励みになりました。本当にありがとうございました。



図鑑を作るために水草をスケッチ



小川原湖の水草を観察中



小川原湖自然楽校 代表  
相馬 孝様

※小川原湖…青森県東部にある汽水湖。日本の湖沼では11番目の面積規模を有する。

### ワクチンペーパー(大平印刷)

子会社の大平印刷では、世界の子どもにワクチンを購入するための寄付金を含んだ印刷用紙「ワクチンコート」・「ワクチンマットコート」を日本紙パルプ商事(株)と共同で作成し、「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」の活動を支援することにしました。

現在、世界では1日に約4,000人も5歳に満たない子どもたちが、はしかやポリオ、ジフテリアなどで亡くなっています。その多くは、ワクチンがあれば救える命と言われています。

この印刷用紙の使用により、所定の寄付金が「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」を通じて、発展途上国の子どもたちへのワクチン購入に充てられます。



### ユニバーサルプリンティング(大平印刷)

大平印刷では、印刷物にユニバーサルデザインの視点を取り入れた、人にやさしい印刷物「ユニバーサルプリンティング」に取り組んでいます。特に、日本人男性の20人に1人が色弱であることから、色弱の方にも配慮した色使い「カラーユニバーサルデザイン(CUD)」を印刷物に取り入れるなど、できるだけ多くの人に配慮された印刷物を提供するように努めています。

### 海外での活動(米国宝酒造)

米国宝酒造(Takara Sake USA Inc.)は、サンフランシスコの企業として、日系団体のイベントだけでなく、地元祭りの祭りの自然環境団体の活動にも幅広く貢献しています。

日本文化をアメリカに伝えていくジャパントウン最大のイベント「桜祭り」に代表される日系イベントへの協賛はもとより、日本総領事館・北加日本商工会議所の年間イベントのほとんどをサポート。今や「松竹梅」の鏡開きは、日系イベントには欠かせないものとなっています。日本庭園「箱根ガーデン」でのイベントにも毎年参加し、売上金額を庭園維持のための基金に寄付しています。また、本社近くで開催されている祭り「Jazz on 4th」でも清酒の有料テイスティングを行い、その売上全額を地元主催者に寄付しています。



「箱根ガーデン」チャリティーイベントでの「松竹梅」の鏡開き(カリフォルニア州サラトガ市)

### ワインスタンド(ラック・コーポレーション)

ワイン販売子会社のラック・コーポレーションでは、販売促進などに使用するワインスタンドを知的障がい者の授産施設で作成してもらっています。また、このワインスタンドは間伐材を使用し、環境にも配慮しています。



地球の「いきいき」のために

# 「緑字決算」を公表します

「事業活動は根本的に地球環境に負荷を与える行為である」ということを真摯に受け止め、地球環境への負荷削減や自然保護活動に努めています。これらの活動結果を「緑字決算 (ECO)」という独自の指標として公表します。

## 宝グループ環境方針

### 1. TaKaRaの企業理念

「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」この基本理念に基づいて、宝グループは積極的に環境保全に取り組み、豊かな社会づくりに貢献します。

### 2. 基本方針

宝グループの業務内容は、宝グループ全体の経営資源配分等グループ戦略の推進やIR活動および酒類・食品・酒精事業全般とこれを支援するマーケティング調査・人材派遣、IT化支援など多岐にわたっています。これらの活動が環境に与える影響を的確に把握し、地球環境保全に貢献するために、次の基本方針に基づき活動します。

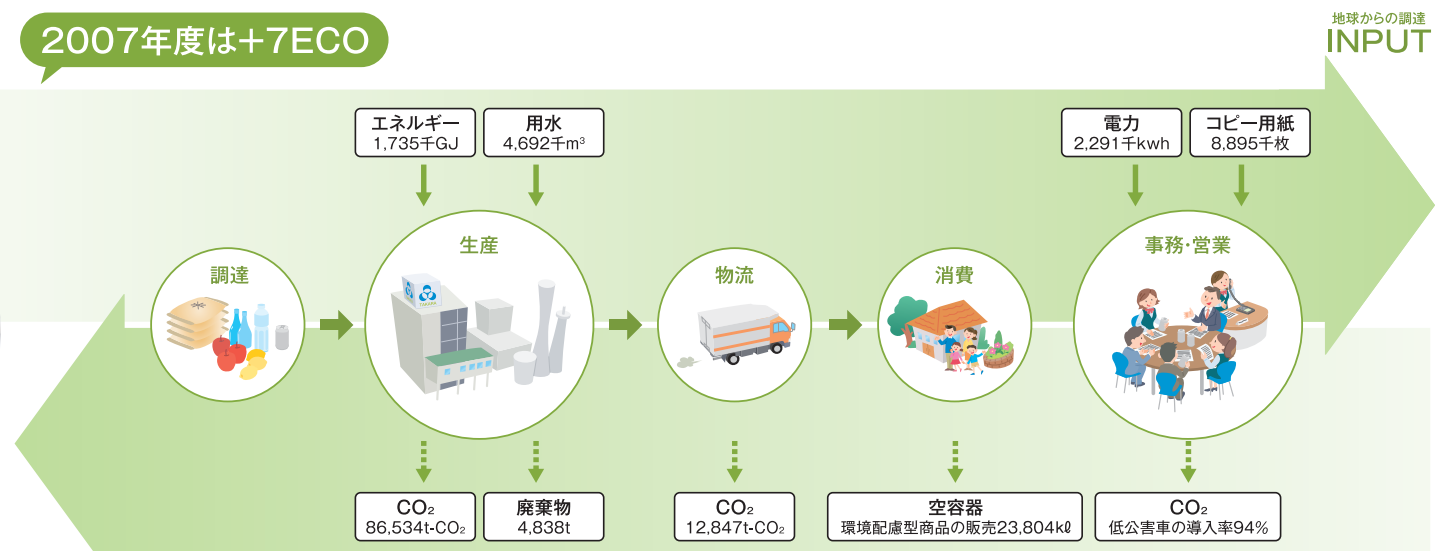
- (1) 地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題の一つとして取り組みます。
- (2) 環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善と汚染の予防に努めます。
- (3) 環境に関する法規制及び組織が同意するその他の要求事項を遵守します。
- (4) 事業活動全般の環境影響評価を的確に行い、技術的、経済的に可能な範囲で目的・目標を定めて実践し、また定期的に見直すことにより環境パフォーマンスの向上を図ることを約束します。
- (5) 宝グループが行う事業活動の中、特に以下の項目について優先的に環境保全活動を推進します。
  - ① 天然資源を大切に、省資源・省エネルギーに努めます。
  - ② 環境に配慮した商品開発に努めます。
  - ③ グリーン購入に努めます。
  - ④ 環境活動への取組み、環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
- (6) 本環境方針は、教育啓蒙活動を通じて宝グループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。なお、本環境方針は、一般の人が入手可能なものにします。

2004年4月1日  
宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長  
宝酒造株式会社 代表取締役社長  
大宮 久

(注) ISO14001における宝グループは、宝ホールディングス(株)、宝酒造(株)、(株)トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステム(株)で構成されています。



2007年度は+7ECO



※その他、社員のボランティア活動参加人数と社会貢献活動費用も緑字決算の対象としています。

## 2007年度の緑字決算結果は、+7ECOです

2007年度の目標(+4ECO)を達成することができました。

2007年度の緑字決算は、目標としていた+4ECO(基準年2004年度比)を上回る+7ECOとなりました。

これは、物流部門のCO<sub>2</sub>排出量の削減や営業車の低公害車への転換が順調に進んだうえ、前年度に大きなマイナスECOとなっていた生産部門4項目すべてで改善がみられ

たことが目標達成の主要因です。生産部門4項目については、工場での省エネ、省資源活動により生産効率をあげ、生産量の増加や製品構成の変化があっても、プラスECOとなるよう更なる改善を進めていきます。(参考:2006年度緑字は-1ECOでした)

## 緑字とは

経済活動の成果を一般的に「黒字」「赤字」と表現することから、環境活動の成果を表現する言葉は何字だろう?と考えた時、環境=緑のイメージから1998年に「緑字」という言葉が生まれました。以来毎年「緑字決算」として宝酒造の環境活動の取り組み結果を公表しています。

## 緑字決算とは

「緑字決算」とは、宝酒造のさまざまな環境負荷や環境配慮、社会的活動の中から重要な項目を選定し、その改善度を「ECO (エコ)」という一つの指標で表したものです。一つの指標で表現するのは、単位や重要度の異なる活動の成果が、結果的によかったのか悪かったのかということ誰にでもわかりやすく理解していただくためです。

## 緑字決算の算出方法

緑字決算の対象となる11項目は、それぞれ単位が違うため、単純にたし算することができません。そこで、各項目の改善率に「重み付け係数」を掛けた「個別ECO」を平均して、緑字決算 (ECO) を算出します。改善された場合は「プラスECO」、その逆は「マイナスECO」で表します。重み付け係数とは、各項目について「宝酒造が取り組むべき重要度」という観点で、有識者5名、宝酒造環境担当者5名、インターネット上で市民137名が行った5段階評価を係数化したものです。

1: 緑字決算対象項目選定と重み付け投票詳細

$$\text{個別ECO} = \text{各項目ごとの改善率} \times \text{重み付け係数}$$

	生産		物流		オフィス		販売		社会		
	エネルギー 使用量	用水 使用量	CO <sub>2</sub> 排出量	廃棄物 排出量	CO <sub>2</sub> 排出量	電力 使用量	コピー用 紙使用量	営業車の 低公害車 導入率	環境配慮 型商品 販売量	社員のボラ ンティア活 動参加人数	社会貢献 活動費用
(単位)	千GJ	千m <sup>3</sup>	t-CO <sub>2</sub>	t	t-CO <sub>2</sub>	千kwh	千枚	%	k <sup>3</sup>	人	百万円
2007年度	1,735	4,692	86,534	4,838	12,847	2,291	8,895	94	23,804	578	105
2004年度	1,475	4,332	83,235	4,338	19,929	2,326	9,593	44	34,165	395	97
A)改善率(%)	-17.6	-8.3	-4.0	-11.5	35.5	1.5	7.3	50.0	-30.3	46.3	8.2
B)5段階評価	3	3	5	3	4	3	2	4	4	3	3
C)重み付け係数	0.89	0.89	1.49	0.89	1.19	0.89	0.60	1.19	1.19	0.89	0.89
A)×C)個別ECO	-15.7	-7.4	-5.9	-10.3	42.3	1.3	4.3	59.5	-36.1	41.4	7.3

重み付け係数 =  $\frac{\text{各項目の5段階評価}}{\text{11項目の5段階評価の平均}}$

緑字決算 (ECO) =  $\frac{\sum \text{個別ECO}}{11}$

2: 環境データ算出方法

3: 過去の緑字決算結果

2007年度  
緑字決算 (ECO)  
7.3

地球の「いきいき」のために

# 環境目標の達成状況を報告します

第6次中期経営計画(2005~2007年度)と連動させて設定した10項目の環境目標の達成状況を報告します。



	2007年度の目標と結果	04年度~07年度の推移	取り組み・達成状況
1	<b>生産部門CO<sub>2</sub>削減</b> 生産量1kℓあたり 2004年度対比 [目標] 2%増加 → [結果] 4.9%増加	<b>生産活動におけるCO<sub>2</sub>排出量</b> 	アルコールの蒸留や製品の殺菌のために使う蒸気をつくる際に重油やガスを使います。また、生産工程では電力も使用します。日々の省エネ活動やエネルギーの効率利用によりCO <sub>2</sub> 削減に取り組んでいます。 →2006年まではアルコール蒸留時のエネルギーの増加や多品種小ロット生産による生産効率の悪化により増加していました。ガスボイラーの導入や省エネ活動によりCO <sub>2</sub> の削減に努めた結果、2007年は目標達成までには足りませんでした。総量、原単位とも減少に転じました。
2	<b>物流部門CO<sub>2</sub>削減</b> 販売数量1kℓあたり 2004年度対比 [目標] 10%削減 → [結果] 15.2%削減	<b>物流におけるCO<sub>2</sub>排出量</b> 	工場からトラックや鉄道、船舶等で製品を運ぶ際にCO <sub>2</sub> が発生します。物流の効率化や省エネ運転、モーダルシフトの推進により、物流部門のCO <sub>2</sub> の排出を抑制しています。 →運送子会社のタカラ物流システムのトラック燃費向上や消費地の近い工場での生産率を高めることにより、工場からの製品物流に伴うCO <sub>2</sub> 総排出量は削減することができました。
3	<b>生産部門用水削減</b> 生産量1kℓあたり 2004年度対比 [目標] 6%増加 → [結果] 9.5%増加	<b>生産活動における用水量</b> 	お酒の原材料として水を使用するほか、装置や容器の洗浄および製品の冷却などにも水を使います。生産工程での水の再利用や節水により用水の削減に取り組んでいます。 →2006年度より総量では5.7%減少しましたが、芋焼酎の原料芋洗浄用水の増加や、アルコール蒸留の増加による冷却水の増加があり、1kℓあたりでは目標を達成できませんでした。
4	<b>工場廃棄物削減 (副産物含まず)</b> 生産量1kℓあたり 2004年度対比 [目標] 19%削減 → [結果] 12.5%増加 <small>(副産物再資源化率99.5%以上) (副産物再資源化率98.0%)</small>	<b>生産活動における廃棄物排出量</b> 	工場廃棄物の再資源化に取り組む、副産物を含む再資源化率は高い水準に達しています。現在は酒粕、みりん粕などの副産物を除く工場廃棄物排出量の総量削減に取り組んでいます。 →芋焼酎増産による芋くずの増加や蒸留廃液の増加などにより2004年度対比では増加していますが、焼酎廃液の飼料化プラントの導入効果により、総量、原単位とも減少傾向にあります。
5	<b>オフィス部門電力使用量の削減</b> 2004年度対比 [目標] 3%削減 → [結果] 1.5%削減	<b>オフィスの電力使用量<sup>※1</sup></b> 	オフィス内の蛍光灯に一つずつスイッチを付れたり、必要以上に明るい場所の蛍光灯を減らしたり、空調の適温調整などにより電気使用量の削減に取り組んでいます。 →上記の活動を各オフィスで実施することにより、全体では2004年度比で1.5%削減することができました。しかし温度を一定に保つ必要がある部屋(コンピュータールームなど)は外気の寒暖の影響が大きく電気使用量が増加したため、目標達成には足りませんでした。

※1: 工場副産物・廃棄物の用途

	2007年度の目標と結果	04年度~07年度の推移	取り組み・達成状況
6	<b>コピー用紙削減</b> 2004年度対比 [目標] 10%削減 → [結果] 6.2%削減	<b>オフィスのコピー用紙使用枚数<sup>※</sup></b> 	エコオフィスキャンペーンなどの社内運動を通じてコピー用紙の削減やリサイクルに取り組んでいます。コピー用紙使用量削減は電気とともに社員の環境意識のバロメーターと考えています。 →6.2%削減し、2年連続して減少しましたが目標を達成できませんでした。
7	<b>環境配慮型商品の開発</b> 環境配慮型の工夫・仕組みをもつ商品 [目標] 2品目以上発売 → [結果] 5品目発売		製品仕様はすべての環境問題の方向性を決定します。宝酒造では環境配慮型商品を開発、発売していくことで消費者の皆様の手に渡ってからの環境負荷も削減したいと考えています。 →上撰松竹梅「たけ」180mlの外装に生分解性フィルムを採用したほか、ペットボトル、ビンの軽量化など資源を節約し、CO <sub>2</sub> を削減する改良型商品を発売しました。
8	<b>環境配慮型商品の販売促進</b> 「はかり売り」新規実施 [目標] 10店以上 → [結果] 19店	<b>「はかり売り」実施店舗数</b> 	環境配慮型製品の販売量が増加することで環境負荷が低減されます。「はかり売り」の店舗数を増やすことで、商品への容器使用量の削減に取り組んでいます。 →新たに全国で19の販売店舗ではかり売りをはじめることができ、焼酎のはかり売りによる販売量も増加しています。
9	<b>営業部門低公害車導入率の向上</b> 低公害車導入率 [目標] 80%以上 → [結果] 94%	<b>営業車両における低公害車の導入率</b> 	営業部門でも、製品物流と同様に多くの営業用車両を使用しておりCO <sub>2</sub> や大気汚染物質が排出されます。燃費のよい低公害車の導入によって環境負荷の低減を図るため、低公害車の導入率向上に取り組んでいます。 →支社の営業車を計画的に低公害車に更新することで、低公害車導入率94%を達成しました。また日々の営業活動の中で一人ひとりが省エネ運転を実践しています。
10	<b>環境コミュニケーション推進</b> 「緑字企業報告書」の配布部数 [目標] 13,000部以上 → [結果] 22,443部	<b>緑字企業報告書の配布部数</b> 	緑字企業報告書をより多くの方にお読みいただくことで、宝酒造の環境への取り組みを消費者の皆様にご理解いただくことができると考えています。 →「エコプロダクツ2007」などの環境イベントを通じての配布などにより、目標を大幅に上回ることをできました。

※2004年度からは(株)トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステム(株)の実績も対象にしています

※5: 工場別サイトレポート

お客様の「いきいき」のために  
社会の「いきいき」のために  
地球の「いきいき」のために  
社員の「いきいき」のために  
信頼される企業であるために

お客様の「いきいき」のために  
社会の「いきいき」のために  
地球の「いきいき」のために  
社員の「いきいき」のために  
信頼される企業であるために

地球の「いきいき」のために

# 環境活動を支える仕組みを整えます

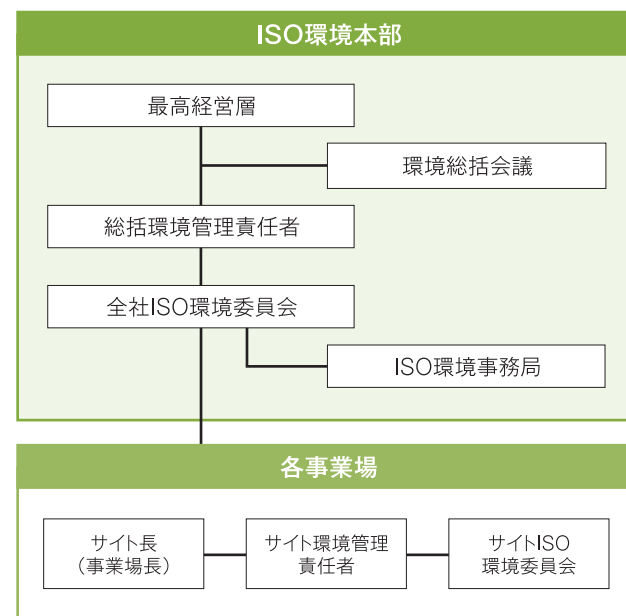
ISO14001の統合認証を取得し、全社が一丸となって環境活動を推進できる体制をとっています。

## 宝グループ環境マネジメントシステム組織図

宝酒造では2002年度までに全工場、全支社、本社（同一ビルに入居している（株）トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステム（株）を含む）でISO14001の認証取得を完了しました。そして2005年1月には統合認証を取得し、ISO環境本部を中心に中期経営計画とISO14001の目標を連携させるなど、経営と直結した目標に向かって活動しています。

各事業場では、環境管理責任者が中心となり具体的な活動を推進しています。

6:ISO14001、9001取得年表



## 環境関連法規遵守状況

環境汚染の未然防止の観点から、法令遵守はもとより自主基準やガイドラインを設定し、環境管理に取り組んでいます。ISO14001のシステムを有効に利用して定期的なチェックを実施し、法令遵守状況を確認しています。なお2007年度は、排水処理において基準値の超過が1件ありましたが、再発防止の措置を行いました。

### 主要な環境関連法規

公害関係法規（大気、水質、騒音、振動、土壌汚染、悪臭）、廃棄物処理関係法規、化学物質管理関係法規（PRTR法、毒物劇物取締法）、リサイクル関係法規（容器包装リサイクル法、食品リサイクル法、資源リサイクル法）、防災・危険物関係法規 など

## エコ京都21マイスター認定（伏見工場）

再資源化率99%以上を6年間達成したことにより、京都府からエコ京都21（京都・環境を守り育てる事業所等）の「循環型社会形成部門」マイスター認定を受けました。

伏見工場では20種類の廃棄物ごとに保管と処理の責任者を任命し、分別回収の徹底、廃棄物の再資源化の推進、排水処理余剰汚泥の減容化に取り組んでいます。



認定証

## 環境会計

2007年度の環境コストは、地球環境への負荷を減らすために取り組んでいる省エネ活動や資源循環活動の費用、環境設備導入のための投資の割合が高くなっています。前年度と比較すると、排水処理設備の増強やボイラー排ガス設備の更新などにかかる公害防止コストや、地球温暖化問題へ対応するための地球環境保全コストが増加しています。

そのほかには、中身を消費した後の容器包装のリサイクルを進めるための上流・下流コストや、法令や規制を遵守するためにかかる管理活動コストなどがあります。さらに事業活動以外では、環境部門が実施している「お米とお酒の学校」などの環境教育や、ペロタクシーなど地球温暖化の防止に貢献するNPOを支援する社会活動コストがあります。

（集計範囲:宝酒造単体、2007年度対象期間:2007年4月1日～2008年3月31日、単位:千円）

分類	主な取り組みの内容	2007年度	
		投資額	費用額
(1) 主たる事業活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）		296,076	494,011
内 訳	① 公害防止コスト	149,178	261,340
	② 地球環境保全コスト	75,593	38,482
	③ 資源循環コスト	71,305	194,188
(2) 主たる事業活動に伴ってその上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（上・下流コスト）	はかり売り用タンク購入、再商品化委託費用、リターナブル	9,328	261,548
(3) 管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト）	環境マネジメントシステムの整備・運用、環境広告等	10,358	296,015
(4) 研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト）	製品等の製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発	0	384
(5) 社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト）	お米とお酒の学校、ペロタクシー、芝生スクール京都等	0	19,106
(6) 環境損傷に対応するコスト（環境損傷コスト）	産業廃棄物適正処理推進基金	0	50
合 計		315,762	1,071,114

※分類は環境会計ガイドライン2005年版による 7:その他の環境会計



排水処理設備



天然ガス（CNG）フォークリフト



焼酎かす飼料化設備

地球の「いきいき」のために

# 環境負荷削減に取り組みます

商品の中身が消費されたあとの空容器は廃棄物として地球環境に大きな負荷をかけています。このため、環境配慮型商品の開発や次世代を担う子どもたちへ啓発活動など、問題解決に幅広く取り組んでいます。

## 環境配慮型商品の開発:4Rの推進

宝酒造では、容器の素材選びなども含め、リフューズ(Refuse:発生回避)・リデュース(Reduce:減量化)・リユース(Reuse:再使用)・リサイクル(Recycle:再資源化)の4Rの取り組みを進めています。

### リフューズ

「焼酎のはかり売り」は、新たな容器を使用せずに中身だけを販売するものです。お客様は家庭にあるペットボトルなどの空容器を販売店に持参し、宝酒造は専用タンクに詰められた焼酎を販売店に工場から直送します。販売店ではお客様が持参した空容器を洗浄し、店頭でその容器にお客様が必要な分だけ詰めて購入します。はかり売りは伝統的な酒類の販売方法であり、そのシステムを現代風にアレンジしています。現在は全国で約225店舗にご協力いただき、1998年の開始以来2008年3月末までに2.7ℓペットボトルで約443万本、段ボール約74万枚節約することができました。



### リデュース

容器の軽量化は、製造時の資源消費や商品輸送に伴う燃料使用の削減などの環境負荷低減効果が期待できます。このため、宝酒造では種々の容器の軽量化を進めています。2002年度に焼酎エコペット、2003年度に宝焼酎「純」720mlリターナブルびんを軽量化しました。さらに、2004年には「タカラ有機本みりん」に従来のものに比べ約3割、約100gも軽い「超軽量ガラスびん」を採用しました。この超軽量ガラスびんの採用により、エネルギー使用量が3.5%、CO<sub>2</sub>排出量が6.2%削減されます。超軽量ガラスびんはタカラ有機本料理清酒や本格米焼酎仕込「寶」「京みりん」にも採用しています。



### リユース

一升びんをはじめとするリターナブル容器の使用は、資源の節約や廃棄物の削減に有効な手段です。宝酒造はこの一升びんで国内トップクラスの使用量を誇っています。残念ながら消費スタイルの変化などの理由から清酒や焼酎、本みりんなどで使用されている一升びんは減少の一途をたどっています。そこで、宝酒造では、1994年から主力商品の宝焼酎「純」、宝焼酎「純」レジェンド720mlびんをリターナブルびんに変更しました。また、2003年から業界団体で普及を推進している「300ml統一リターナブルびん」を採用した特撰松竹梅(特別純米)300mlを販売しています。



### リサイクル

宝酒造は、1998年にリサイクルの効率化のために策定された「指定ペットボトル自主設計ガイドライン」に酒類業界で初めて完全準拠したペットボトルを開発しました。ラベルをはがしやすく改良したり、リサイクルの妨げになっていた取っ手をなくすなど、リサイクル性を向上させました。また、本みりんや料理用清酒には「はずせるキャップ」を採用し、お客様の分別作業を容易にしました。



## 4Rの推進

## 環境配慮型商品の開発

環境に配慮した商品の販売量を増やすことは、間接的に環境負荷を下げることに繋がると考えます。宝酒造では、ISO14001の目標に「環境配慮型商品の開発」を掲げ、毎年2件以上の商品改良や開発を行うことを目標として活動しています。

### 2007年度 環境配慮型商品開発・改良事例

対象商品	環境配慮の内容
タカラcanチューハイ、宝焼酎の烏龍割り	500mlペット軽量ボトル採用
焼酎「JAPAN」	軽量化びん採用
全量芋焼酎「一刻者」、本格芋焼酎「黒甕」	720ml軽量化びん採用
上撰松竹梅「たけ」	180mlペット生分解性フィルム採用

9:環境に配慮した商品開発のための指針 10:グリーン調達・4Rガイドライン

### TOPICS

#### 業界初! 清酒の外装フィルムに生分解性プラスチックを採用しました

清酒「上撰松竹梅「たけ」」180mlペット容器の外装フィルムに、「生分解性プラスチック\*」で作られたフィルムを採用しました。今回採用したフィルムは、トウモロコシのでんぷんを原料とするもので、フィルム製造時および廃棄時の二酸化炭素排出量の合計が、従来品の約半分に抑えられる、環境に優しいフィルムです。

\*生分解性プラスチック…自然界の微生物によって二酸化炭素と水に分解される「自然に還るプラスチック」のこと。



## 次世代を担う子どもたちへの啓発活動

NPO法人日本環境倶楽部と共同で作成した飲み物容器のリサイクル啓発絵本「TaKaRaリサイクルロード」を全国の小中学校の希望者に無料配布しています。また、エコプロダクツ展などの環境イベントにおいても、希望者に配布しています。



リサイクルロード

## 環境イベント等を通じた情報発信

エコプロダクツ展や京都環境フェスティバル、アースデイ東京などの環境イベントにおいて、環境配慮型商品の開発など4Rの取り組みについて紹介しました。4Rの情報発信



## 業界関連団体との連携による取り組み

容器リサイクルを推進するためには、関連する業界全体で取り組まなければ解決できない問題がたくさんあります。宝酒造では、種々の容器リサイクル団体に加入し、運営も含めた団体の活動に積極的に参加しています。リサイクル団体では、日頃は事業活動で競合しているメンバーがリサイクル推進という共通目的のために知恵を出し合い、効率的なリサイクルシステムの構築や機関誌・ホームページ・展示会などを通じた容器リサイクルの啓発活動などを行っています。

### 宝酒造が加入している主なリサイクル団体

- ・(財)日本容器包装リサイクル協会
- ・アルミ缶リサイクル協会
- ・ガラスびんリサイクル促進協議会
- ・紙製容器包装リサイクル推進協議会
- ・PETボトルリサイクル推進協議会
- ・酒パックリサイクル促進協議会

8:720mlリターナブルびんの推移 H:環境配慮型商品

## 地球の「いきいき」のために

# 環境コミュニケーションを進めます

環境問題をより効果的に解決するために、多くのステークホルダーの方々の  
双方向コミュニケーションを積極的に進めています。

環境問題は、市民の皆様をはじめ、産・官・学など多くの  
ステークホルダーの方々と連携することで、より効果的な  
解決が図れると思います。そのためには、日頃からの双方  
向のコミュニケーションが欠かせません。

宝酒造では、緑字企業報告書やインターネットを通じて、  
また、環境イベントへの出展や環境セミナーでの講演など  
さまざまな方法を通じて、双方向のコミュニケーションに  
努めています。特に、環境イベントや環境セミナーでの講

演は、宝酒造の環境への取り  
組みに対するご意見を直接伺  
える貴重な機会と考えています。

中尾 雅幸  
環境課



## 環境イベントへの協賛・出展

2007年度は、4月開催の「アースデイ東京」、8月のびっくりにエコ100選、12月の「京都環境フェスティバル」と「エコプロダクツ展」に協賛・出展しました。

これらの展示会においては、空容器の問題への取り組み(環境配慮型商品の開発)や環境教育の取り組みを中心に紹介しました。

### ●京都環境フェスティバル2007

18年目を迎える「京都環境フェスティバル2007」は、地  
球温暖化防止京都会議(COP3)開催10周年を記念して、  
例年にも増して活発に行われました。ここでは、宝酒造が協  
賛した「京都環境ポスターコンクール」の優秀30作品の展  
示もなされました。宝酒造のブースでは環境配慮型商品  
を中心に宝酒造の環境活動を紹介しました。



京都環境フェスティバルの様子

### ●エコプロダクツ展2007

国内最大規模の環境展である「エコプロダクツ展」に出  
展し、「はかり売り」や宝焼酎「純」のリターナブルびんなど  
の環境配慮型商品の紹介を行うとともに、子どもたちには  
環境啓発絵本「リサイクルロード」を配布しました。当社の  
環境活動をより知ってもらうために、宝酒造ブース内のパネ  
ルを読んで答える「宝酒造環境クイズ」を実施し、3日間で  
約5,000名のクイズ参加者がありました。また、主催者と連  
携したイベント企画としてペロタクシーの体験乗車も実施し  
ました。「エコプロダクツ展」は、来  
場者数が年々増  
加しており、市  
民の方々と直接情  
報交換できる重要  
な機会であると思  
っています。



エコプロダクツ展の様子

## ホームページでの取り組み

宝酒造の環境サイト「環境への取り組み」は、2005年に  
リニューアルし、常に新しい情報をお届けできるように運営  
しています。2006年には、「環境への取り組み」内のエコキ  
ッズコーナーを独立させて「こどもタカラ」を新設。環境だ  
けでなくタカラ本みりんの工場見学サイトへのリンクを行う  
など、宝酒造の総合的な子ども向けサイトとしました。

ほかにも、環境ポータルサイト「環境goo」の協力を得て「お  
米とお酒の学校ブログ」を開設するなど、双方向コミュニケ  
ーションを進めています。



「こどもタカラ」のホームページ

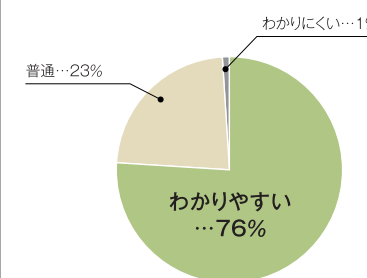
HP: こどもタカラ

## CSR報告書の発行

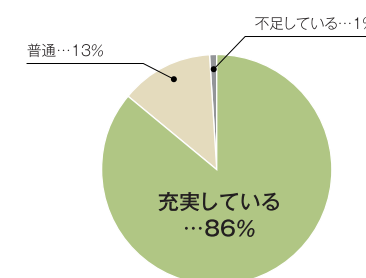
1998年から「緑字(ECO)」という独自の指標を用いて、地球環境に関する収支決算を「緑字決算」という形で開示しています。毎年発行している報告書にはアンケート用紙を同封しており、「緑字企業報告書2007」(2007年8月発行)につきましては、694件の回答をいただきました。皆様から返信いただいたご意見などを参考に、今後もよりわかりやすい報告書の作成に努めてまいります。

### ■2007年度のアンケートの結果

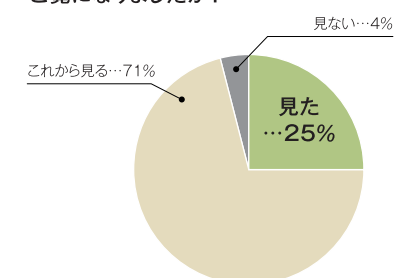
わかりやすさはいかがですか？



情報量はいかがでしたか？



ホームページで公開している「詳細資料」は  
ご覧になりましたか？



## セミナーでの講演

日本環境倶楽部主催の環境セミナーで宝酒造の社会貢  
献活動について紹介したほか、ガラスびんのリユースに関  
するパネルディスカッションにパネラーとして参加するなど、  
宝酒造の環境活動、社会貢献活動を紹介するとともに、多く  
の方々と意見交換ができました。



日本環境倶楽部主催環境セミナーでの講演の様子



社員の「いきいき」のために

# 人財育成・能力開発に取り組めます

「企業人・社会人・個人」のバランスのとれた人財を育てるために、人事制度をはじめ、能力開発やスキル向上を目的とした研修制度の拡充に取り組んでいます。

## めざすべき人財像

「人」はかけがえのない「財産」であるとの視点に立ち、私たちは人材を「人財」と表現しています。また、TaKaRaグループ長期経営構想(TE-100)でめざしている企業価値の向上を実現するためには、「風土・人財の進化」が欠かせないと考え、私たちは人間尊重の立場に立ち、「いきいきと明るい職場、人を育む風土」をつくり、その中で「企業人・社会人・個人のバランスのとれた人財」を育成していきます。

### ■私たちがめざす人財像



## ●人事制度の概要

私たちの人事制度では、その中心を「役割」に置いた「役割等級制度」を採用しています。この制度の目的は、役割や成果の発揮に応じた公平・公正な処遇を実現することで、社員一人ひとりが持つ力をより一層引き出していくことにあります。目標管理から評価までのプロセスにおいて、利益管理を徹底するとともに、個人業績と評価との連動性を高め、成果を上げればしっかりと報われる制度になっています。一般社員の制度運用にあたっては、労働組合とともに適正な運用を心掛けています。

## ●人財育成・能力開発のために

「めざすべき人財像」や求められる「役割」を發揮できる人財に育成すべく、目標管理制度による職場での仕事を通じた人財育成を基本にしています。

また、自己申告制度により、社員一人ひとりのキャリアの方向性を把握し、それも踏まえた人財ローテーションを行うことで、社員の能力開発につなげています。そして新入社員アドバイザー制度をはじめとするOJT、各種Off-JT(集合研修)、自己啓発支援制度などにより能力開発につながる環境を整えています。

### ■人財育成、能力開発に関する主な制度、研修

目標管理制度、自己申告制度、新入社員アドバイザー制度		
集合研修メニュー	階層別研修	新入社員研修、新任管理職研修、考課者研修、マネジメント研修 etc.
	キャリア形成支援	キャリアデザイン研修(30歳、35歳)
	自主選択型研修プログラム	プレゼンテーション研修、ロジカルシンキング研修、OJTリーダー研修 etc.
	その他研修	いきいき実践研修、職種別研修 etc.
自己啓発支援制度	通信教育、資格・免許取得者表彰、大学院履修援助	

J:採用情報

## 受講者による研修レポート

### 新入社員研修

山岡 加奈  
西日本支社流通推進部  
流通推進第一課



新入社員は毎年、会社や業界についての理解、学生から社会人への意識転換を目的とした導入研修を経て、先輩社員に同行しながら営業活動について学ぶ営業研修や、各地にある工場でモノづくりの現場を体験し、製造知識を身につける工場研修などを行っています。特に、工場研修では、実際に製造の体験をすることで、一つのお酒ができるまでにはたくさんの努力やこだわりがあることを実感し、自社製品に対する愛情がより一層深くなりました。製品を見るとモノづくりに関わっている社員の顔や言葉が浮かび、その気持ちは私の営業活動の源になっています。

### キャリアデザイン研修

関 幸雄  
商品部 宣伝グループ



キャリア開発支援の一環として2007年度よりスタートしたこの研修は、自分自身の「これまで」を振り返り、また「これから」を考えることを通じて、今後のキャリアデザインや能力開発目標を明確にすることを目的としています。

入社8年目でこの研修を受講しましたが、今までの仕事を振り返り、今後の行動計画を考えるよい機会となりました。また、会社の中での自分の役割を再認識するとともに、部署や勤務地の異なる同年代の社員が集まり熱く話し合うことで、同僚への尊敬の気持ちがさらに強まりました。

### 自主選択型研修

飯島 健  
業務革新推進部



宝酒造では、「自己責任・自己選択・自己実現」ができる人財の育成をめざした、「自主選択型研修プログラム」が展開されています。変わり続ける環境の中で、自分自身も能力を高めて成長したい、そんな思いで参加した「ロジカルシンキング研修」では、講義や他のメンバーとの議論など、日常業務の延長線上にはない貴重な体験を得ることができました。それまで何気なく無意識に使っていた自分の能力の強みや弱みを客観的に再認識できたことは、現在の自信に大きくつながっています。

### いきいき実践研修

木田 大輔  
広域流通部 関西広域課



社員一人ひとりが経営への参画意識を高め、それを経営に活かすことを目的に、全国より集まった若手・中堅社員が、日頃抱えている意見を忌憚なく討論し、その意見を経営層に向けて直接発信しています。

今回も全国から33名の社員が集まり、「業績向上のために私たちができることは何か」をチームごとに討論し、社長をはじめとする経営層に対して直接プレゼンテーションを行いました。経営層との双方向コミュニケーションにより、自らの経営参画意識も高まり、またチームのメンバーと徹底的に議論する中で日頃気づけなかった新たな発見などもあり、とてもよい刺激になりました。

お客様の「いきいき」のために

社会の「いきいき」のために

地球の「いきいき」のために

社員の「いきいき」のために

信頼される企業であるために

お客様の「いきいき」のために

社会の「いきいき」のために

地球の「いきいき」のために

社員の「いきいき」のために

信頼される企業であるために

## 社員の「いきいき」のために

# 働きやすい環境づくりを進めます

社員がいきいきと安心して働ける職場づくりのために、さまざまな取り組みをしています。

### 雇用状況

2008年3月31日現在の社員数は1,317名で、5年前に比べると効率化や体質の強化によるスリム化の推進により、280名少なくなりました。一方で、2005年4月1日からシニアパートナー制度を導入し、定年後も活躍できる体制を整えています。

#### ■社員数内訳

		2003年3月31日		2008年3月31日	
		人数	構成比	人数	構成比
社員数	男性	1,397名	87.5%	1,164名	88.4%
	女性	200名	12.5%	153名	11.6%
	合計	1,597名		1,317名	
管理職数	男性	307名	100.0%	271名	98.2%
	女性	0名	0.0%	5名	1.8%
	合計	307名		276名	

### メンタルヘルスの取り組み

社員の心の健康状態については、宝グループ健康保険組合が外部機関を利用して定期的にチェックしています。診断結果は本人にのみ通知され、希望に応じて電話や面談によるメンタルカウンセリングを受けることができます。

### 人権問題・セクシュアルハラスメントの防止

社員の人権を尊重し、差別のない明るくいきいきと働くことができる職場づくりをめざし、入社時や管理職研修において、人権に関する啓発活動を実施しています。採用活動においても、男女雇用機会均等法を遵守するとともに、人権に関する事項を徹底するため、採用にかかわる社員に、マニュアル等により事前の説明を行っています。

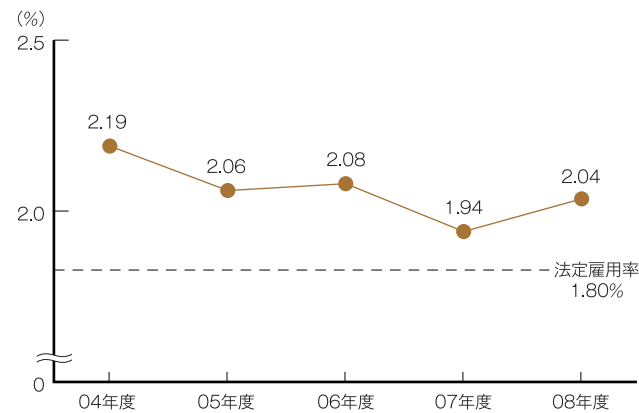
また、セクシュアルハラスメント防止に向けて、事業場ごとに相談・苦情の窓口、ならびに苦情処理委員会を設置しています。

### 障がい者の雇用促進

障がい者の雇用にあたっては、職業能力の把握、障がい者特性に応じた職域の確保・開発、作業施設の改善など、多くの配慮すべき点があります。これら一つひとつを改善し、解決していくことで、障がい者がその能力を十分に発揮できる職場、健常者とともに職業生活に参加し、働く生きがいを感じることができる職場を確保するべく取り組んでいます。

なお、2008年4月1日現在の障がい者雇用率は、2.04%となっています。

#### ■障がい者雇用率の推移 ※4月1日現在



### 障害者雇用優良事業所として 厚生労働大臣表彰を受賞

厚生労働省および独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構が主催する「平成19年度障害者雇用優良事業所等全国表彰」において、厚生労働大臣表彰を受賞しました。これは、過去5年間の平均障がい者雇用率が2.09%（法定雇用率1.80%）、障がい者勤続5年以上の定着率が90%といった実績などが評価されたものです。

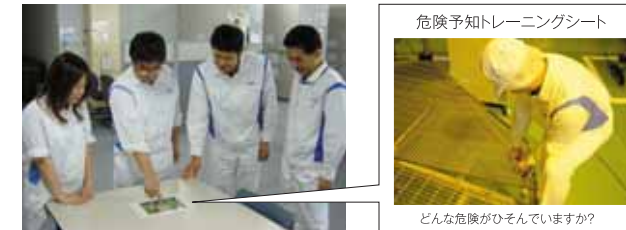


表彰式の様子

### 安全衛生管理の取り組み

社員が安全に働ける環境を整えるために安全衛生委員会を設け、社員の危険予知能力や安全意識の向上に向けた活動を行っています。工場では「労働安全衛生マネジメントシステム」に基づき、危険が潜む作業や設備を明らかにして事故の防止に努めています。

危険予知の感性を高めるため、工場の各課ではKYT（危険予知トレーニング）や各社員が自身で体験したり新たに発見したリスクを「ヒヤリハットシート」に記入して報告するなど、危険回避に取り組んでいます。また、4S（整理・整頓・清掃・清潔）活動の徹底により、安全確保に努めています。2007年度の休業災害は2件で、昨年度より1件減少しました。今後も事故発生原因と対策の水平展開を図り、労働災害ゼロ化をめざしていきます。



「危険予知トレーニングシート」を使っているミーティングの様子

### 健全な労使関係

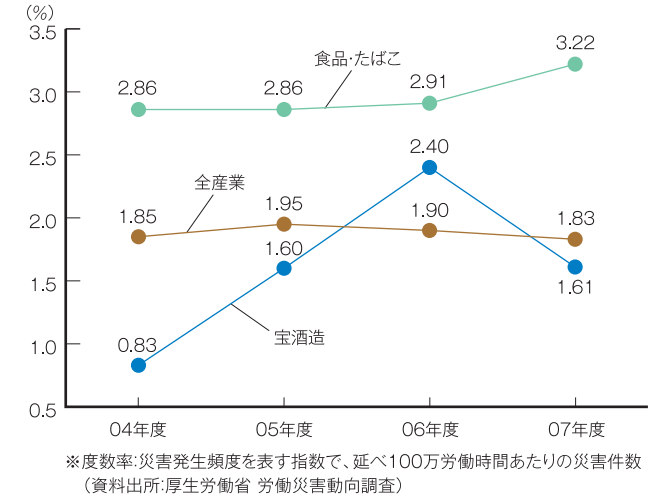
宝酒造では、TaKaRa労働組合と労使の信頼を基盤に健全な労使関係を構築しています。労使協議会や各種労使専門委員会を開催し、経営内容に関する報告や労働条件について協議を行っています。

#### TaKaRa労働組合から

##### 労働条件の向上と働きがいを得るための活動

TaKaRa労働組合は、健全な労使協調路線のもと、賃金や労働時間などの直接的な労働条件の向上のみならず、働きがい得られる職場をめざして活動しています。2007年～2013年の長期計画「サンシャイン2013」においては、「仕事と私事のバランスがとれた毎日～オンもオフも充実させよう～」「心身ともに健康な毎日～健康で生き活きたした生活を送ろう～」「目標をもって熱く

#### ■休業災害度率



大館 洋一  
TaKaRa労働組合  
中央執行書記長

なれる毎日～達成感・満足感を追い求めよう～」「信頼しあえる仲間がいる毎日～仲間とともに喜びを分かちあおう～」という4つの毎日を実現していくことをめざしています。

## 社員の「いきいき」のために

# 仕事と家庭の両立を考えます

仕事と家庭のバランスを大切に、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

### 仕事と家庭の両立のために

個人の価値観やライフスタイルに応じて、社員が仕事と家庭を両立できる働きやすい環境を整えることによって、社員の能力が十分に発揮できるような体制づくりに取り組んでいます。

### 「次世代育成支援企業」に認定

2007年4月1日より「父親が配偶者の出産時に取得できる休暇制度」や「結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤等家庭の事情を理由とする退職者の再雇用登録制度」を導入したこと、また男性の育児休職取得を推進したことにより、2007年6月に京都労働局より次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主」の認定を受けました。



### ■休日休暇制度利用状況

	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度
育児休職制度(利用者数)	5	9	7	15	18
介護休職制度(利用者数)	0	0	0	0	0
乳幼児看護休暇制度(利用者数)	—	51	57	56	56
妊産婦・乳幼児健診休暇制度(利用者数)	—	20	26	20	23

### 育児休職者に対する支援

「育児と仕事を両立できる環境」の実現をめざし、育児休職者に対して、インターネットによる職場復帰支援プログラムを実施しています。これは、休職者の豊かな育児生活とスムーズな職場復帰を支援するための取り組みで、休職期間中の能力開発や会社とのコミュニケーション促進をはかるものです。社員の育児休職期間をブランクの期間からブラッシュアップの期間に転換し、男女ともに働きやすいワークライフバランスのとれた企業をめざしています。



野池 悦子  
調味料カスタマーセンター

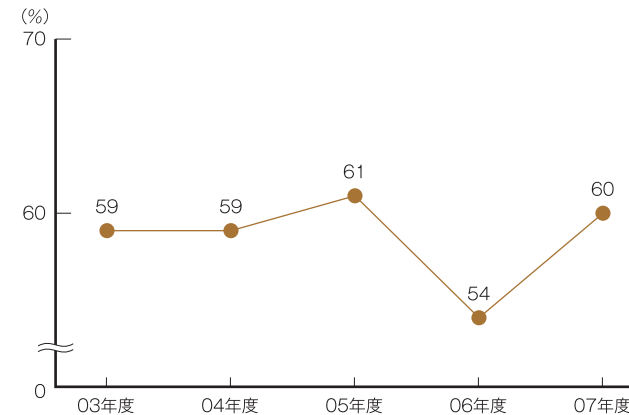
しており、とても助かっています。日々必死の思いでやりくりしなければならぬ子育て期を、さらなる制度充実で支援してもらえよう希望します。

### 休日休暇制度

年間124日(完全週休2日制)の休日のほか、有給休暇は入社時に年10日間付与され、以後勤続年数によって最大年20日間付与されます。また、2年以上経過した有給休暇は最大40日まで積み立てが可能で、本人の疾病、家族の介護、資格取得の際などに利用することができます。

さらに、25歳から55歳まで5年ごとに最低10日間の連続休暇が取得できるリフレッシュ休暇制度も設けています。その他、事業場単位で週1回「ノー残業デー」を設けるなどの取り組みで、長時間労働の抑制を図っています。

### ■有給休暇取得率の推移



### 福利厚生制度

社宅・独身寮などの基本メニューのほかに、社員一人ひとりが自分のライフプランに合わせて、あらかじめ用意されている福利厚生メニューから一定のポイント内で自由に選択して利用できる「カフェテリアプラン」を導入しています。毎年社員の要望に応じて、ポイント利用メニューの拡充、変更を行い、積極的な活用を呼びかけています。

### ■カフェテリアプランの例

- 社宅・寮使用料補助
- 住宅ローン利子補助
- 育児サービス利用補助
- 介護サービス利用補助
- 子女入学金補助
- 医療費用補助
- 自己開発メニュー利用補助
- 書籍購入費用補助
- 宿泊施設利用補助
- スポーツ施設利用補助
- レジャー施設利用補助

### 制度利用者の声

当社の福利厚生制度のよさは何と言っても「使いやすさ」にあると思います。私は趣味でドラゴンボートという競技スポーツをしているので、週に一度は帰宅途中に会社が契約しているスポーツクラブで体を鍛えています。全国どこでも格安で利用できるのも、出張や実家に帰省した時にも利用できるのが嬉しいですね。同僚もポイントを利用して、旅行に行ったり、マッサージでリフレッシュしたりとフル活用しています。独身寮は会社の借り



谷 重崇  
ビジネスサポートセンター

上げなのですが、「社宅・寮使用料補助」としてポイントを利用することも可能で、誰にでも利用しやすい福利厚生制度にとっても満足しています。

## 信頼される企業であるために

# 社内の体制を整えます

グループの経営方針やコンプライアンスを推進するための社内体制について報告します。

※このページはTaKaRaグループ全体に関する内容です。

## 経営方針

TaKaRaグループは、穀物や水、微生物といった自然の恩恵をもとにした発酵技術と、最先端のバイオ技術をベースに企業活動を進めています。そして、自然の恵みに感謝するとともに、これらの技術を背景に消費者の皆様の視点を第一に考えた商品やサービスを提供することで「自然と社会と人間との調和」をめざしています。

2000年5月に発表した長期経営構想「TaKaRa Evolution-100」では、この企業理念に基づいた経営方針として、「お客様の視点」、「人間尊重の視点」、「自然・社会との調和の視点」の3つの視点を大切に企業活動を行うことを掲げ、経営目標としてTaKaRaグループの企業価値の向上をめざしています。

## コーポレート・ガバナンス

TaKaRaグループは、2002年4月1日より持株会社体制に移行し、純粋持株会社「宝ホールディングス(株)」の傘下で、宝酒造(株)、タカラバイオ(株)、宝ヘルスケア(株)ほか30社が事業活動を展開しています。持株会社体制下のコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方は次の通りです。

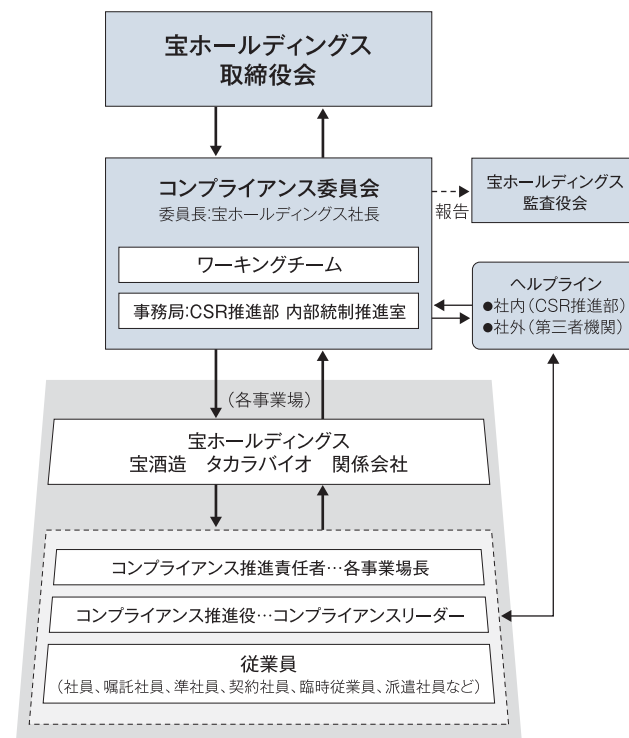
### ●TaKaRaグループ全体の企業価値向上のために

- ①グループ各社に権限を委譲し、自立経営のもと事業の展開スピードをあげます。
- ②会議体の定期的な運営等を通じ、各社の事業報告や今後の経営方針・事業戦略について意見交換しあえる風土を維持します。
- ③法令遵守の姿勢や倫理性を確保し、コンプライアンス体制、危機管理体制を維持することで、グループ全体での企業の社会的責任を果たします。
- ④オープンかつタイムリー、そして正確な情報開示を継続し、適時開示に対する社内体制を維持することで、経営の透明性を高めます。

## コンプライアンス推進体制

TaKaRaグループでは、誠実で公正な企業活動の確保をめざすため、社長を委員長とした「コンプライアンス委員会」を設置し、グループ全体のコンプライアンス推進体制(法・社会倫理の遵守、危機管理)の強化を図っています。コンプライアンス委員会の方針のもと、具体的な活動は各社の社長・コンプライアンス担当役員・事業場長が責任者となり指導・推進を行うとともに、職場ではコンプライアンスリーダーが推進役を担っています。

### 1.コンプライアンス推進体制



## 2.法・社会倫理の遵守のために

### ①コンプライアンスマインドの浸透・定着

「TaKaRaグループ コンプライアンス行動指針」に基づき、トップ・管理職・一般社員の各階層別に、集合研修や職場教育などを行いコンプライアンスマインドの浸透・定着を図っています。

#### コンプライアンス行動指針の基本的な考え方

- (1) 国内外の法令を遵守するとともに、社会倫理を十分に認識し、社会人としての良識と責任を持って行動します。
- (2) 自然環境への負荷の軽減に取り組み、生命の尊厳を大切にしながら生命科学の発展に貢献します。
- (3) この行動指針に反してまで利益を追求することをせず、公正な競争を通じた利益追求をすることで、広く社会にとって有用な存在として持続的な事業活動を行います。



コンプライアンスリーダー研修



コンプライアンスストップセミナー

### ②コンプライアンス・マニュアルの作成と配付

社員一人ひとりがどのように行動すべきかを「コンプライアンス・マニュアル」にわかりやすくまとめ、ファイルや手帳、小冊子などの形で全員に配付しています。



コンプライアンス・マニュアル

## 3.危機管理体制

### ①平時の対応

職場を総点検しリスクを洗い出すことで、優先順位をつけながらリスクの防止・軽減活動を進めています。このような活動は毎年繰り返し行い、その活動結果はコンプライアンス委員会で報告されています。活動の見直しを行いながら、さらにレベルアップした活動につなげていきます。

### ②緊急時の対応

人命・身体に危険が及ぶおそれのある事態、企業の信用や資産に重大な影響が及ぶおそれのある事態など、緊急事態が発生した場合は、「緊急時対応マニュアル」に基づいた体制をとります。各部署はただちに連携し、緊急対策本部を設置するとともに、迅速かつ的確に対応します。

## 4.ヘルプラインの設置

法令違反や不正行為などを発見した場合、ただちに上司に伝え職場内で解決するのが基本です。しかし、それがうまくできない場合のために、TaKaRaグループでは、社員からの相談や通報を受け付ける「ヘルプライン」を、社内(CSR推進部)および社外(第三者機関)に設置しています。

ヘルプラインは、「公益通報者保護法」および「ヘルプライン規程」に基づき運用されており、相談者の匿名性・プライバシーは守られ、相談したことで不利益な取り扱いを受けることはありません。また、秘密保持について十分に対策したうえで調査を行い、調査結果に基づき、適切な対応を行います。

## 宝酒造株式会社 概要

宝酒造株式会社は、持株会社である宝ホールディングス株式会社の傘下において、酒類・酒類・調味料事業を展開する中核会社として事業活動を展開しています。

商号	宝酒造株式会社 (英文名:TAKARA SHUZO CO.,LTD.)
代表者	取締役社長 大宮 久
設立年月日	2002年4月1日(持株会社体制移行による)
資本金	1,000百万円
本店所在地	京都市伏見区竹中町609番地
本社事務所	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
決算期	毎年3月31日
主な事業	酒類、酒類、調味料の製造・販売

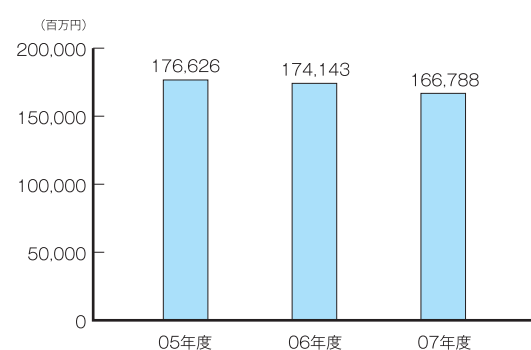
事務所	本社事務所(京都)・東京事務所(東京)
支社	北海道支社(札幌)・東北支社(仙台)・首都圏支社(東京)・関信越支社(さいたま)・東海支社(名古屋)・京滋北陸支社(京都)・西日本支社(大阪)・九州支社(福岡)
工場	松戸工場(松戸)・楠工場(四日市)・伏見工場(京都)・白壁蔵(神戸)・黒壁蔵(高鍋)・島原工場(島原)
物流センター	東日本物流センター(松戸)・西日本物流センター(京田辺)

### ●主な関係会社

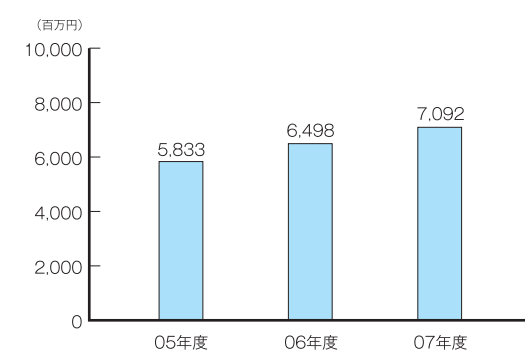
【国内】 タカラ物流システム株式会社(運送業、倉庫業、旅行業等)  
 ティービー株式会社(運送業、倉庫業)  
 長崎運送株式会社(運送業、通関業、倉庫業)  
 株式会社 ラック・コーポレーション(ワインの輸入・販売)  
 タカラ物産株式会社(食料品および飼料販売)  
 タカラ容器株式会社(容器卸売業)  
 株式会社トータルマネジメントビジネス  
 (広告代理業、調査企画業務、人材派遣業、飲食店経営)

【海外】 USA Takara Holding Company(持株会社)  
 Takara Sake USA Inc.(酒類の製造・販売)  
 AADC Holding Company, Inc.(持株会社)  
 Age International, Inc.(バーボンウイスキーの販売)  
 The Tomatin Distillery Co.,Ltd.(スコッチウイスキーの製造・販売)  
 J&W Hardie Ltd.(スコッチウイスキーの製造・販売)  
 宝酒造食品有限公司(酒類、酒類、調味料の製造・販売)  
 上海宝酒造貿易有限公司(酒類・食品の輸入販売および輸出)  
 Singapore Takara Pte.Ltd.(酒類の販売および投資活動)

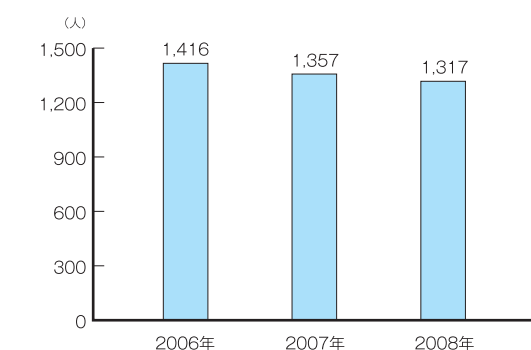
### ■売上高(宝酒造グループ)



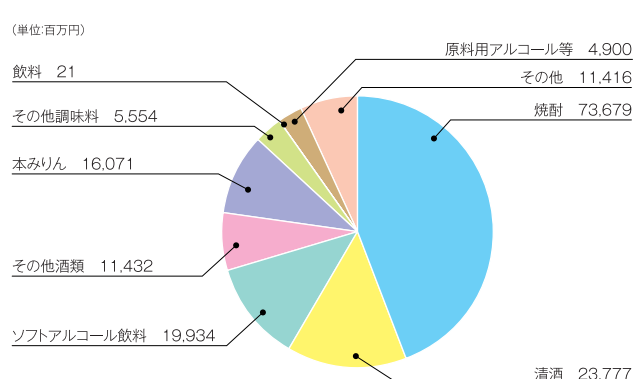
### ■経常利益(宝酒造グループ)



### ■従業員数(宝酒造単体) ※3月31日現在



### ■2007年度カテゴリー別売上高(宝酒造グループ)



## 宝酒造株式会社 事業紹介

### 焼酎



長年培ってきた独自の技術によって、時代が求める焼酎を追求し、市場を創造し続けることで、焼酎市場のさらなる発展に貢献してきました。甲類焼酎では、ボトル焼酎という新たなカテゴリーを築き、発売以来30年以上のロングセラーを続ける「宝焼酎「純」」、伝統と安心の焼酎No.1ブランド「宝焼酎」など、品質に支えられたブランドによりトップシェアを堅持。本格焼酎においては、芋100%にこだわった「全量芋焼酎「一刻者(いっこもん)」」など、さまざまな原料での造りにこだわった焼酎を開発・育成し、本格焼酎市場においても確固たる地位を築いています。

### 清酒



「松竹梅」は、慶祝・贈答市場におけるトップブランドとして磐石な地位を確立。「よるこびの清酒」として高品質なイメージを守り続け、成長を遂げてきました。また、ソフトバック市場においても「松竹梅「天」」を発売。差別化した酒質と榊山氏作の書画を採用したデザインも好評で、多くのお客様に支持されています。兵庫県の灘にある「白壁蔵」では、「本当に旨くてよい酒とは何か」を徹底的に追求し、純米酒や吟醸酒といった特定名称酒を中心に製造しています。今後も造りや原材料にこだわり、お客様に納得いただける高品質で個性的な商品を提案していきます。

### ソフトアルコール飲料



1984年、衝撃的なデビューを飾った「タカラcanチューハイ」。厳選された「焼酎」「果汁」「水」と確かな技術に裏づけられたこだわりの品質は、お客様からの絶大な支持により発売から20年を超えるロングセラー商品です。そのほか、果汁の産地や搾汁方法にこだわった「タカラCANチューハイ「直搾り」」、チューハイの原点とされる「焼酎ハイボール」の味わいを追求した「TAKARA「焼酎ハイボール」」、糖質ゼロの「宝焼酎の鳥籠割り」など、お客様のさまざまなニーズにお応えする高品質な商品を開発・育成していきます。

### 調味料



古くから世界各地で使われてきた「調味料」としてのお酒のチカラに着目し、料理をおいしく、食卓を豊かにするさまざまな商品をご提案しています。江戸時代に誕生した「タカラ本みりん」は日本料理に欠かせない調味料としてお客様にご支持いただき、本みりんのトップブランドとして日本の食文化とともに進化・発展を続けています。またタカラ料理清酒は、素材の生臭さを消し、料理に深いコクを与える「料理のための清酒」としてご愛用いただいています。そのほか、「京寶」ブランドをはじめとする加工業務用調味料を取り揃え、伸長する中食市場へも「お酒のチカラ」を活かした調味料をご提案しています。

### 輸入酒



30余年にわたり、常にお客様のご支持をいただいている信頼のブランド「紹興酒「塔牌(とうはい)」」はさまざまなラインアップ展開でお客様のニーズに対応し、中国酒市場をリードしてきました。そのほか、バーボンの「プラントン」、スコッチウイスキーの「アンティクアリー」、リキュールでは「グリーンバナナ」シリーズ、「桂花陳酒」など、世界各地から選りすぐりのブランドを取り揃えています。今後も、お客様それぞれの嗜好や飲用シーンにフィットする世界の価値ある「高品質」輸入酒をご提案していきます。

### 酒類



連続式蒸留機によって原料用アルコールを製造し、全国の清酒、焼酎、リキュールメーカーへ販売を行っています。また、清酒製造産業支援の立場から、ニーズに応じてアルコール製造に欠かせない酵母や酵素など清酒関連商品をご提供し、清酒メーカーとのパートナーシップを深めています。清酒造りの原点にかかわって業界の発展に寄与し、日本の酒文化である清酒を守っていきたく。常にそんなこだわりを持って取り組んでいます。一方で、味噌などの食品や医薬品、化粧品などの原料として使用される工業用アルコールの製造・販売にも注力しています。

### 海外



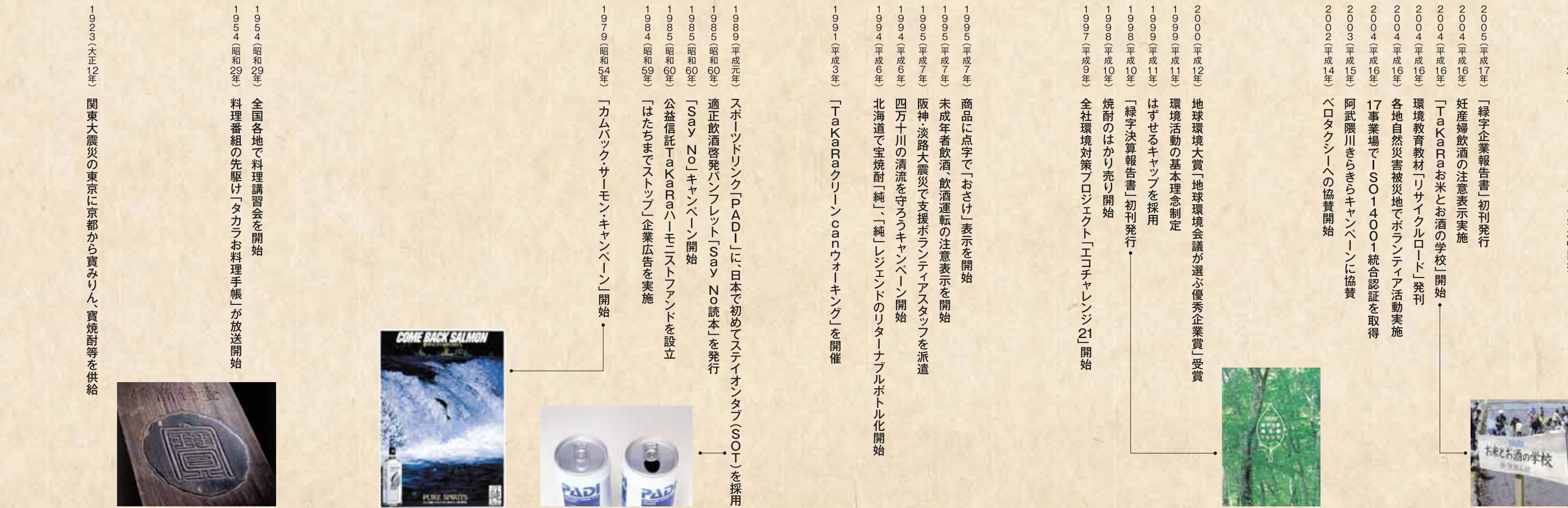
米国には清酒「松竹梅」やみりん、梅酒を製造・販売するTakara Sake USA Inc.と、スーパープレミアムバーボン「プラントン」を扱うAge International, Inc.があり、中国には清酒「松竹梅」やみりん、焼酎を製造・販売、および日本からの輸入製品の販売を行う宝酒造食品有限公司、グループ会社の洋酒の輸入販売を行う上海宝酒造貿易有限公司などがあります。欧州では英国にてスコッチウイスキーの製造・販売を行うThe Tomatin Distillery Co.,Ltd.、販売拠点として英国と仏国に営業事務所があります。これらのネットワークを相互に活用・補完することで、より効果的な活動をめざすと同時に、新たな事業も展開していきます。

# 宝酒造のあゆみと社会・環境活動の歴史

## 会社・商品の歴史



## 社会・環境活動の歴史





### 「緑字企業報告書2008」に対する意見

京都文教大学 現代社会学科  
教授 島本 晴一郎  
(京都CSR研究会幹事)

#### はじめに:

緑字企業報告書2008は同社のブランド価値である自然、社会との共生を全面的に掲げた環境・社会報告書である。その内容は「いきいき」を提供するという同社独自の経営理念に基づいて、各ステークホルダー別にわかりやすく構成されている。またECO単位という評価指標により、企業の環境、社会に関する目標を指標化し、その全体活動に関する実績を逐年報告するいわゆる「緑字決算」の手法は、いわば同社のオリジナリティとして定着したといえる。

#### 内容について:

同社の経営理念は「人間の健康的な暮らしと、生き生きとした社会づくりに貢献する」ことにある。この報告書では、消費者の安全性を確保するために、製品ラベルにおいて表示義務を上回る品目数のアレルギー表示に踏み切ったことや、賞味期限を過ぎた「とそ散」の自主回収ならびにその後とられた対応についても詳細に公表されている。また、社会の「いきいき」のために、2008年3月より、「TaKaRa田んぼの学校」のホームページにおいて「クリック募金」を設け、自然活動に取り組むNPO支援のための代行寄付を開始したことが記載されている。このほか、積極的に大学生、大学院生のインターンシップを受け入れ、企業の自然環境への取り組み方を学ばせる機会を年々増加させる一方、京滋地区の5つの芸術系大学と京都府の連携で京都環境ポスター・コンクールを支援するなど若い世代への「いきいき」の提供活動は年々厚みを増していることが読み取れる。

ところで、上記の諸活動は、社員の「いきいき」によって支えられており、本報告書では、職場と個人生活のバランスが最大限に配慮されている実態が具体的に描かれている。例

えば育児休職中の職場復帰支援プログラムや、育児休職制度の利用が順調に伸びている点や、当年度においては男性の育児休職制度が新設されたという記述から、今後社員の育児への参画が積極化することが予想できる。また本報告書によれば、身体障がい者の雇用率が堅調であるのに対し、女性の雇用比率についてはやや低迷している感がある。今後、環境、人間の健康、社会的ニーズの面で、同社の企業価値を向上させていくためには、よりきめのこまやかな生活感覚と、洞察力が旺盛な女性の能力を活用することが得策であると考えられ、早晚女性の雇用率の上昇が予感される。このように本報告書の持つ事実の経年的記述は同社の近未来的な予測を可能にする意味でも意義がある。

本報告書では同社のコンプライアンス体制についても詳しく報じている。コンプライアンスとは一般的に敷衍された法律違反問題の有無ならびにその予防体制に集約されやすいが、本来はより広く企業の経営理念(社会性)に合致した行動が取れているかどうかをチェックすることである。この意味で、コンプライアンス委員会の活動内容、あるいはヘルプラインの利用率並びにその内容にまで、踏み込んで本報告書で明らかにできれば画期的であり、社会・環境報告書としての意義はいっそう高まるものと思われる。

同社の緑字企業報告書としての真骨頂は、生産工程から流通販売に至るまでのマテリアルバランスを計測し、環境への負荷数値目標値と現実値とのギャップをフォローしている点である。また同社の環境と社会の総合的な進化を把握する観点から、社会性指標として社員のボランティア活動参加人数、社会貢献活動費用を加えて全体で11の指標にまとめ、単一の総合指標として経年的な比較を行っている点は極め

てユニークである。今次決算では、当初の目標値である2004年度実績比+4ECOを上回る+7ECOを達成している点は大いに評価できる。環境指標については、工場廃棄物の削減率が道半ばであること、オフィス部門の電力使用量の削減率が未達である点などが留意点として残るが、このようにその詳細内容を個別に数値化することで、客観的に同社の置かれた立ち位置がより良く把握できる。ちなみに本報告書では社会性指標は結果のみで、その詳細内容の記述が無いのがやや物足りないが、この点については今後の工夫が期待される。

#### 最後に:

同報告書の読者アンケートによると、同社の報告書は極めて好評であるが、その背景には、地に付いた分かりやすさと同時に具体的かつ詳細な数値目標による合理性があるからであると推測される。おそらくは地道に生産をする人の実態と苦労が伝わることで、数値も生きてくるのだろう。その意味では、今回の特集では宝焼酎「純」を取り上げ、一つの製品が誕生するまでのさまざまな苦労を社員の見方から描いており、それ自体理解を容易にする点は評価できる。ただ、さらに欲を言えば緑の下で頑張っておられる人たちの声、あるいは工場と地元との草の根の交流が加味されると、よりビビッドに「いきいき」が伝わったであろうと思われる。いずれにしても、同社の緑字企業報告書は、より真実性、透明性、継続性の原則を踏まえた社会・環境報告書としての性格を年毎に高めつつあり、今後ともその公式報告書としての意義を高めていくことが期待される。このためには、本報告書に記載された内容、あるいは数値評価の結果を、同社の企業経営の中核的な認識として真摯に受け止め、今後の経営計画にも反映していくことが必要と思われる。



表紙について

この写真は、2007年4月に当社の主催する社会・環境プログラム「TaKaRaお米とお酒の学校」田植え編で撮影されたもので、参加されたお子様がお米の苗を手にかけているところです。私たちは、このいきいきとした表情と緑の苗や土の色から、企業理念である「自然と社会と人間との調和」を感じ取れるのではないかと考え、表紙写真に選定しました。

#### ●編集後記

環境広報部長 佐藤 浩史

本報告書では、一企業市民として、社会の様々なステークホルダーの皆様との関わりをご報告しています。本年度は特に主要の酒類事業において重要性の高い「安全・安心」への取り組みを特集でご紹介しました。また昨年のステークホルダーミーティングでのご意見を反映し「社会のいきいき」に関する活動の記載を充実しています。今後も本報告書を通じて活動結果や方向性をお伝えするとともに、ステークホルダーの皆様との対話や協働を進めることで、皆様の「いきいき」に貢献できる活動を推進してまいりたいと思います。

#### ●編集体制:

- ・環境統括会議(宝ホールディングス(株)・宝酒造(株) 役員、グループ会社社長 計13名)
- ・編集委員会(CSR推進部門、広報部門、IR部門、経営企画部門、総務・人事部門、営業部門、商品開発・宣伝部門、購買・製造部門、品質保証部門、お客様相談部門、環境部門 計17名)
- ・編集責任者:中尾 雅幸(環境課長)

#### ●発行責任者:佐藤 浩史(環境広報部長)

TaKaRa

お問い合わせ先

宝酒造株式会社 環境広報部

〒600-8688 京都市下京区四条通烏丸東入  
TEL:075-241-5186 FAX:075-241-5126



この印刷物は環境に考慮し、大豆インキ・水なしオフセット印刷で制作しています。また、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン(カラーユニバーサルデザイン)として認定されました。



皆様の「いきいき」は私たちの「いきいき」

# 緑字企業報告書

CSR Report 2008

宝酒造株式会社